

令和 6 年度事業報告書

社会福祉法人 大野城市社会福祉協議会

令和6年度事業報告

★総括★

＜事務局長 高原 信治＞

社会・経済の変化や社会保障・社会福祉の諸制度改革の進展、地域福祉の施策化、NPOや企業等の参入、ニーズの変化・多様化、地域生活課題の複雑化・複合化に応じた社協活動・事業の広がり、福祉以外の他分野との連携・協働の必要性を背景に、全国社会福祉協議会が策定している社協活動の指針となる基本要項が33年ぶりに見直され、令和6年度末に社会福祉協議会基本要項2025が示されました。新たに社協の使命として、地域の関係者と協働して「ともに生きる豊かな地域社会」を創造することが明記され、社協の機能に災害時の支援や地域福祉の財源確保などが追加されました。

2024年度（令和6年度）は、地域のニーズや課題をもとに作成した第1期大野城市地域福祉活動計画の初年度として7つの重点事業に取り組んでまいりました。

第1期大野城市地域福祉活動計画の具体的な取り組みとして、生活に困っている方への助成金を活用した食糧等支援や社協がおこなう相談窓口の平日夜間及び休日の開設、社会福祉法人連絡会で取り組む「よりそい大野城」なんでも相談窓口の周知、マンション暮らしのあれこれ講座、移動支援講座やハンディキャブ車両の地域貸出、ボランティアコーディネーターの連絡会、エントリーシステムを利用したボランティア活動参加の機会の創出、権利擁護に関するセミナーや終活、相続セミナーなどの取り組みをおこないました。

福祉教育についてはこれまで実施していた福祉教育基礎研修会を、福岡県自治研修センター（まなびのやど福岡）で開催し、新たな福祉教育プログラムを取り入れ、テーマ別講座として開催しました。さらに、令和6年1月に発生した能登半島地震で被害のあった被災地を応援するため、市民へ参加を募って石川・能登応援の旅を開催することができました。

また、令和6年度は、市内の企業及び市民の方から頂いた指定寄附等にて福祉車両等あわせて3台の購入整備をおこなうことができました。市民の方々からの温かい寄附に感謝し、地域福祉活動の充実を目指して活用させていただきます。

令和7年度は、第1期大野城市地域福祉活動計画の2年目に入り、実践的な取り組みを推進し、地域共生社会の実現に向けてより一層職員一同邁進してまいります。

★第1期大野城市地域福祉活動計画(2024年度～2029年度)★

① 《食の確保隊》

「ふくし・くらしのなんでも相談×フードパントリー」をおこない、食にお困りの方を対象とした相談会を実施しました。また、食の確保隊による支援をおこなうために利用するチラシの作成をおこないました。市関係機関にチラシの活用方法の説明をおこないながら食糧の提供とともに関係者と連携した相談支援に取り組んでまいります。

② 《ふだんの暮らしのアシストセンター》

ふだんの暮らしのアシストセンターの周知チラシの作成をおこない、ホームページやSNSでの周知をおこないました。また、月に1度、夜間と休日に弁護士相談を開催しニーズの把握に努めました。

③ 《社会福祉法人と地域のつながり》

大野城市社会福祉法人連絡会で取り組む何でも相談窓口「よりそい大野城」の啓発ポスターやチラシを作成し、区長会や民生委員児童委員定例会、公民館での掲示を依頼し周知を図りました。

④ 《地域福祉へのいざない事業》

「“向こう三軒両隣”～地域で互いに助け合う優しく楽しい地域社会づくり～」を目標に住民が身近な地域活動に参加し、相互に交流しながら地域の福祉問題について学び合う場づくりとして、ふーちゃんゼミナールの開催をおこなった。マンション暮らしのあれこれ講座では、マンションと住民の高齢化をテーマに学習の機会を設けました。

⑤ 《地域における外出手段を充実させるための事業》

ハンディキャブ貸出事業に加えて福祉車両の地域への貸出の仕組みをつくりスタートさせ、区でおこなわれているミニデイやサロン等の参加者の送迎に利用されました。また住民がつくる高齢者の移動・外出支援の仕組みと事例を学ぶ公開講座を開催しました。

⑥ 《大野城市ボランティア・市民活動フロント事業》

ボランティアコーディネートに関わるNPO等関係者とコーディネーター同士の顔が見える関係づくりをはじめ、それぞれのボランティア活動情報の共有やボランティア活動の活性化にむけた情報交換のための連絡会を開始しました。また、ボランティアエントリーシステムによるボランティア活動機会の提供に努めました。

⑦ 《権利擁護事業に関する取組強化と利用促進》

成年後見制度の相談窓口として、大野城市すこやか長寿課及び福祉サービス課と社協による協働型の中核機関において情報共有をおこない、啓発事業として成年後見セミナーを開催しました。その他にも相談ニーズの充足を図るため、終活セミナーや相続セミナーを開催しました。

◇重点事業◇

《健全な法人運営》

- ・今年度は高額寄附（一般寄附・指定寄附）をいただき、ハンディキャブ2台と軽貨物車1台、大判プリンターを購入させていただきました。
- ・社協会員会費は令和5年度と比較すると微増し、赤い羽根共同募金については令和5年度の実績を下回ったものの、政令指定都市・中核市を除く一般の市町村のなかでもっ

とも多い募金実績を残すことができました。

・介護サービス関連事業については、訪問入浴の事業所加算の取得や、職員の異動等収支の改善の努力をした結果、令和5年度と比較して320万円余り赤字額が減少したものの、厳しい経営状況が続いているので引き続き収支の改善に努めてまいります。

〈〈業務の効率化〉〉

・勤怠管理システム導入に向けて検討をおこない、令和7年度予算で市に要求いたしましたが残念ながら予算をいただくことができませんでした。今後は勤怠管理システムのみならずテレワーク導入等も含めた業務の効率化に向けて検討を進めてまいります。

〈〈法人後見事業〉〉

本人に健康問題について関係者と説明を行い、課題を共有し、収支状況を確認しながら、中長期的な視点で、障がいサービスの契約をおこないました。また、本人に代わって、同居している高齢の母親の退院手続きに同席し、二人の退院後の在宅生活がスムーズに行えるように対応をおこないました。

〈〈介護関連の制度改正への対応〉〉

・義務化された虐待防止やハラスメント等の指針の策定をおこない、各種委員会や研修を開催しました。また、BCP（業務継続計画）はこまめに利用者情報を更新し災害時に備えました。また、訪問入浴についてはサービス提供体制の加算申請をおこない収入の増加に努めました。

〈〈多職種との連携で強化した支援体制づくりを考える〉〉

・他事業所のケアマネージャーと連携し、車いす利用者の病院受診で利用できるリフトカー利用登録の案内をおこない、病院内は制度外事業の対応をおこなうなど支援をおこないました。様々な場面で臨機応変に対応できるよう多職種との連携で支援体制を構築していきます。

◇赤い羽根共同募金運動◇

赤い羽根共同募金運動の令和6年度の実績額は、令和5年度と比較して、221,358円の減少となりましたが、物価高などの厳しい社会情勢の中、福岡県内でも政令市である福岡市と北九州市、中核市である久留米市をのぞいては、市民の皆様のご協力のおかげで、県内では一番実績がよかったという結果となりました。

令和6年度 事業報告書



目次

| | | | |
|------------------------------------|----|-------------------------|----|
| 組織図、令和6年度職員体制…………… | 4 | 19. 児童青少年福祉対策事業…………… | 31 |
| 執行機関 理事会…………… | 7 | 20. 学校における福祉教育…………… | 32 |
| 議決機関 評議員会…………… | 7 | 21. 母子父子福祉対策事業…………… | 34 |
| 監査機関…………… | 8 | 22. 介護者支援事業…………… | 34 |
| 評議員選任・解任委員会…………… | 8 | 23. ふくしフェスティバル2024…………… | 35 |
| 専門委員会…………… | 8 | 24. ボランティア活動推進…………… | 36 |
| 総務企画課 | | 25. 被災地支援活動…………… | 41 |
| 1. 理事会・評議員会等…………… | 9 | 26. 総合相談事業…………… | 42 |
| 2. 専門委員会…………… | 10 | 27. 生活福祉資金貸付事業…………… | 44 |
| 3. 情報公表…………… | 10 | 28. 特例貸付相談支援事業…………… | 45 |
| 4. 寄附受入事業…………… | 11 | 29. 日常生活自立支援事業…………… | 46 |
| 4-2 フードパントリー…………… | 12 | 30. 法人後見事業…………… | 47 |
| 地域課 | | 31. ライフレスキュー事業…………… | 48 |
| 5. 社協会員推進事業…………… | 13 | 32. 死後事務事業…………… | 48 |
| 6. 大野城市地域福祉活動における 市民活動推進計画…………… | 13 | 介護サービス | |
| 7. 地域福祉推進事業…………… | 16 | 33. 介護サービス事業…………… | 49 |
| 8. 社会福祉法人ネットワークの構築 | 21 | その他 | |
| 9. 大野城市生活支援体制整備事業 | 22 | 34. 社会福祉援助技術現場実習受入 | 52 |
| 10. 広報関係…………… | 27 | 35. 職員の資格（取得）状況…………… | 53 |
| 11. リフトカー運行事業…………… | 28 | 36. 職員内部研修…………… | 54 |
| 12. 福祉バス運行事業…………… | 28 | 37. 事業継続計画…………… | 54 |
| 13. 福祉用具貸出事業…………… | 28 | 参考資料 | |
| 14. ハンディキャブ貸出事業…………… | 29 | 社会福祉人 福岡県共同募金会 | |
| 15. 高齢者福祉対策事業…………… | 29 | 大野城市支会…………… | 55 |
| 16. 身体障がい者福祉対策事業…………… | 30 | 参照資料 | |
| 17. 知的障がい児者福祉対策事業…………… | 30 | 【2024年度 事業計画】…………… | 58 |
| 18. 子育て支援事業…………… | 31 | | |

令和6年度各種委員等の就任状況について

令和7年3月31日

| 職員氏名 | 機関名・職名・委員名等 | | ▽ 推薦母体 | ▽ 依頼元 |
|--------|------------------------------------|--------|--------------------------|----------------------------|
| 合原 佳登理 | (社福)野の花学園評議員 | 大野城市社協 | | 野の花学園 |
| 〃 | 社会福祉法人悠生会評議員 | 大野城市社協 | | 悠生会 |
| 〃 | 大野城市シルバー人材センター役員選考会委員 | 大野城市社協 | | 大野城市シルバー人材センター |
| 〃 | 民生委員推薦会委員 | 大野城市社協 | 大野城市 | 大野城市 |
| 〃 | 大野城市シン・コミュニティ構想推進協議会委員 | 大野城市社協 | | 大野城市コミュニティ文化課 共働推進担当 |
| 〃 | 大野城市総合計画審議会 | 大野城市社協 | | 大野城市経営戦略課 |
| 〃 | 一般財団法人あすたむ舎評議員 | | | (株)ニック |
| 〃 | 春日市母子寡婦福祉会会長 | | 春日市 | 春日市母子寡婦福祉会 |
| 〃 | こども家庭庁 こどもの貧困対策・ひとり親家庭支援部会委員 | | 全母子協 | |
| 〃 | 一般財団法人全国母子寡婦福祉団体協議会特命理事 | | 全母子協 | 一般財団法人 全国母子寡婦福祉団体協議会 |
| 〃 | 社会福祉法人福岡県母子寡婦福祉連合会専門委員 | | 福岡県 | 社会福祉法人 福岡県母子寡婦福祉連合会 |
| 高原 信治 | 年金委員 | 大野城市社協 | | 日本年金機構 南福岡年金事務所 |
| 〃 | ・悠生会 入所検討委員会第三者委員 ・苦情処理委員会第三者委員 | 大野城市社協 | | 悠生会 |
| 〃 | 大野城市地域福祉計画推進協議会委員 | 大野城市社協 | | 大野城市すこやか福祉部 福祉サービス課 |
| 〃 | 大野城市コミュニティ活動応援ファンド事業令和7年度 審査会委員 | 大野城市社協 | | NPO法人共働法人のまち 大野城 |
| 馬場 徹 | (社福)まどか園(慶和会)評議員 | 大野城市社協 | | 慶和会 |
| 〃 | 大野城市文化連盟評議員 | | その他 市文化連盟評議員 | 大野城市民劇団迷子座 |
| 〃 | もやいネット南委員 | 大野城市社協 | | 南地区コミュニティ運営協議会 |
| 〃 | 東コミ福祉包括ケアシステム実行委員会委員 | 大野城市社協 | | 東地区コミュニティ運営協議会 |
| 〃 | 北地区包括ケアシステム協議会委員 | 大野城市社協 | | 北地区コミュニティ運営協議会 |
| 金丸 龍彦 | 大野城市民総ぐるみ防災訓練実行委員会委員 | 大野城市社協 | | 大野城市 危機管理課消防・防災担当 |
| 〃 | おおの山城 大文字まつり委員会監事 | 大野城市社協 | | おおの山城大文字まつり委員会 |
| 山内 友香 | 中央まどかネット委員 | 大野城市社協 | | 中央地区コミュニティ運営協議会 |
| 〃 | 大野城市空き家等対策審議会委員 | 大野城市社協 | | 大野城市 |
| 〃 | さわやかテラス大野城中央運営推進会議委員 | 大野城市社協 | | さわやかテラス大野城 |
| 〃 | 大野城市子ども・若者育成会議委員 | 大野城市社協 | | 大野城市子ども・若者政策課 子ども政策担当 |
| 〃 | 大野城市子ども・若者育成会議委員 子育て支援部会委員 | 大野城市社協 | | 大野城市子ども・若者政策課 子ども政策担当 |
| 〃 | 大野城市民読書活動推進委員会 | 大野城市社協 | | コミュニティ文化課 |
| 井上 修 | 権利擁護センターばあとなあ 福岡 成年後見人 | | その他(権利擁護センター ばあとなあ福岡) | 社会福祉士会 |
| 橋川 美加 | 大野城市国民保護協議会委員 | 大野城市社協 | | 大野城市 |
| 〃 | 大野城市地域包括ケアネットワーク協議会委員 | 大野城市社協 | | 大野城市 |
| 永田 貴大 | おおの山城 大文字まつり委員会委員 | 大野城市社協 | | おおの山城大文字まつり委員会 |
| 〃 | もやいネット南委員 | 大野城市社協 | | 南地区コミュニティ運営協議会 |
| 〃 | 東コミ福祉包括ケアシステム実行委員会委員 | 大野城市社協 | | 東地区コミュニティ運営協議会 |
| 〃 | さわやかテラス大野城地域運営推進会議委員 | 大野城市社協 | | さわやかテラス大野城 |
| 〃 | ここふるショップ実行委員会委員 | 大野城市社協 | | 大野城市 |
| 〃 | 南地区コミュニティ運営協議会 拡大幹事会委員 | 大野城市社協 | | 南地区コミュニティ運営協議会 |
| 原田 好加 | 北地区包括ケアシステム協議会委員 | 大野城市社協 | | 北地区コミュニティ運営協議会 |
| 〃 | 中央まどかネット委員 | 大野城市社協 | | 中央地区コミュニティ運営協議会 |
| 幸 悦子 | 筑紫地区在宅医療・介護連携推進検討会議委員 | 大野城市社協 | | 筑紫医師会在宅医療介護連携 支援センター |
| 福島 愛沙 | 大野城市介護保険運営協議会委員 | 大野城市社協 | | 大野城市介護支援課 |
| 〃 | 大野城市地域密着型サービス運営委員会委員 | 大野城市社協 | | 大野城市介護支援課 |
| 〃 | 大野城市地域包括支援センター運営協議会委員 | 大野城市社協 | | 大野城市介護支援課 |
| 松田 千草 | 大野城市要保護児童対策地域協議会委員 | 大野城市社協 | | 大野城市子ども家庭センター 母子保健担当 |
| 〃 | 大野城市健康食育推進委員会 こども健康部会委員 | 大野城市社協 | | 大野城市子ども家庭センター |
| 〃 | 福岡県高次脳機能障がい相談支援 体制連携調査委員 | 大野城市社協 | | 福岡県ホームヘルパー連絡会 福岡県保健医療介護 |
| 〃 | 福岡県ホームヘルパー連絡会 | 大野城市社協 | | 福岡県ホームヘルパー連絡会 |

令和6年度職員体制（令和7年3月31日現在）

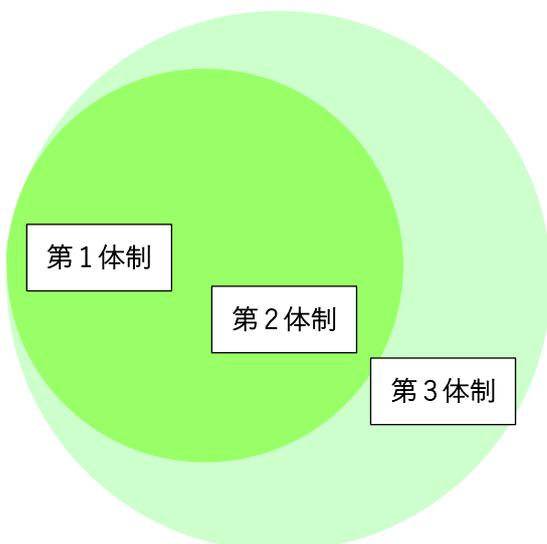
| | | |
|-----------|------------|----------------------------|
| 事務局長 | 1名 | |
| 業務部長 | 1名 | |
| 総務企画課 | 7名 | (内、再任用職員1名、一般職3名) |
| 地域課 | 25名 | (内、再任用職員1名、一般職4名、非常勤職員14名) |
| 居宅介護サービス課 | 19名 | (内、非常勤12名) |
| 総数 | 53名 | |

プロジェクトチーム

課を横断したチームを作り業務を遂行するとともに、職員相互の連携協力により、組織一丸となり、事業・活動を展開。

| |
|-------------------------|
| ボランティアエントリーシステム |
| 第1期大野城市地域福祉活動計画 |
| ふくしフェスティバル(市協働) |
| 権利擁護事業における事業開発の研究:死後事務等 |
| 学校における福祉教育 |

緊急災害時連絡体制



| | | | |
|----------------------|--|------------------------|--------------|
| 第1体制 (8名) | 楠林会長 高原事務局長 幸課長 | 合原常務理事 馬場部長 金丸課長 | 井上室長 山内課長 |
| 第2体制 (18名) | 楠林会長 高原事務局長 幸課長 | 合原常務理事 馬場部長 金丸課長 | 井上室長 山内課長 |
| | 橋川 小川 永田 石本 今泉 福島 中山 松田 岩永 伊藤 | | |
| 第3体制 (28名) | 楠林会長 高原事務局長 幸課長 | 合原常務理事 馬場部長 金丸課長 | 井上室長 山内課長 |
| | 橋川 小川 永田 石本 今泉 福島 中山 松田 岩永 伊藤 今村 皆川 平山 国崎 大北 原田 西村 岡部 今坂 貝原 | | |

大野城市社会福祉協議会組織構成

執行機関 理事会名簿(12名)

(敬称略)

| 推薦母体 | 氏名 |
|-------------------|-----------|
| 筑紫農業協同組合 | 楠 林 義 治 |
| 大野城市区長会 | 永 野 元 生 |
| 大野城市民生委員児童委員連合協議会 | 齊 藤 裕 治 |
| 大野城市シニアクラブ連合会 | 鬼 塚 春 光 |
| 大野城市商工会 | 花 田 稔 之 |
| 大野城市小中学校校長会 | 大 隈 和 彦 |
| 大野城市身体障がい者福祉協会 | 上 野 新 生 |
| 大野城市福祉委員会 | 藤 不 二 乃 |
| 社会福祉法人 悠生会 | 福 田 明 希 子 |
| 大野城市ボランティア連絡協議会 | 野 田 和 彦 |
| 大野城市食生活改善推進会 | 高 田 恵 子 |
| 識見を有する者 | 合 原 佳 登 理 |

議決機関 評議員会名簿(18名)

(敬称略)

| 推薦母体 | 氏名 |
|-------------------|-------------|
| 大野城市区長会 | 森 正 次 |
| 大野城市民生委員児童委員連合協議会 | 妹 尾 洋 子 |
| 大野城市シニアクラブ連合会 | 萩 尾 幸 紀 |
| 大野城市商工会 | 前 崎 浩 一 |
| 大野城市身体障がい者福祉協会 | 黒 木 與 士 朗 |
| 大野城市福祉委員会 | 中 野 久 美 子 |
| 大野城市ボランティア連絡協議会 | 森 敏 江 |
| 大野城市食生活改善推進会 | 川 端 宏 子 |
| 大野城市役所 | 井ノ上 裕 治 |
| 大野城市議会 | 森 和 也 |
| 筑紫保護区保護司会大野城支部 | 白 壁 広 光 |
| 春日警察署少年補導員連絡会 | 城 戸 妙 子 |
| 大野城市子ども会育成会連絡協議会 | 橋 口 清 美 |
| 大野城市手をつなぐ育成会 | 赤 井 田 八 千 代 |
| 大野城市教育委員会 | 平 井 源 樹 |
| 大野城市保育所連盟 | 高 橋 香 奈 |
| 社会福祉法人 あげぼの福祉会 | 江 頭 大 樹 |
| 大野城市母子寡婦福祉会 | 田 口 富 恵 |

監査機関(2名)

(敬称略)

| 推薦母体 | 氏名 |
|---------|-------|
| 大野城市商工会 | 原 一郎 |
| 識見を有する者 | 佐藤 義廣 |

評議員選任・解任委員会(5名)

| 区分 | 氏名 |
|---------|-------|
| 外部委員 | 藤田 博久 |
| 外部委員 | 間 かおる |
| 外部委員 | 金子 重紀 |
| 社協監事 | 佐藤 義廣 |
| 社協事務局職員 | 高原 信治 |

専門委員会

| 委員会名 | 区分 | 氏名 |
|---------------|------|---------|
| 総務委員会 | 理事 | 高田 恵子 |
| | 評議員 | 赤井田 八千代 |
| | 評議員 | |
| 福祉事業委員会 | 理事 | 藤 不二乃 |
| | 理事 | 福田 明希子 |
| | 理事 | |
| | 評議員 | 森 敏江 |
| | 特別委員 | 藤田 博久 |
| 広報委員会 | 理事 | 花田 稔之 |
| | 評議員 | 川端 宏子 |
| | 評議員 | 中野 久美子 |
| | 評議員 | 江頭 大樹 |
| 介護サービス事業運営委員会 | 理事 | 鬼塚 春光 |
| | 理事 | 野田 和彦 |
| | 評議員 | 妹尾 洋子 |

<総務企画課>

1. 理事会・評議員会等

会計(サービス区分)

理事・監事の任期は、令和5年6月25日から令和7年定時評議員会終了時まで。

法人運営費

評議員の任期は、令和3年6月25日から令和7年定時評議員会終了時まで。

1 理事会開催状況 (理事総数 13名)

| 開催年月日 | | | 議 題 | | 出席者 |
|-------|-------|-----|-------------------|--|-----|
| 令和6年 | 5月9日 | 第1回 | 第1号議案 | 社会福祉法人大野城市社会福祉協議会評議員会(書面表決による)の開催について | 13名 |
| | 6月7日 | 第2回 | 第2号議案から 第5号議案 | 令和5年度社会福祉法人大野城市社会福祉協議会事業報告賞について 他 | 11名 |
| | 7月10日 | 第3回 | 第6号議案 | 社会福祉法人大野城市社会福祉協議会評議員候補者の推薦及び評議員選任・解任委員会の開催について | 13名 |
| | 12月3日 | 第4回 | 第7号議案から 第8号議案 | 大野城市訪問型サービスD(移動支援)事業の実施について 他 | 9名 |
| 令和7年 | 3月11日 | 第5回 | 第9号議案から 第11号議案 | 社会福祉法人大野城市社会福祉協議会令和7年度事業計画書(案)について 他 | 9名 |

正副会長会の開催 …… 正副会長会の開催 …… 打合せ会議開催
(令和6年5月28日、11月22日、令和7年2月28日)
理事会・評議員会の議案の事前審議

2 監事会の開催状況

| 開催年月日 | | 監 査 内 容 | 出席者 |
|-------|--------|-----------------|-----|
| 令和6年 | 5月9日 | 令和5年度 業務・会計監査 | 2名 |
| | 11月11日 | 令和6年度 業務・会計中間監査 | 2名 |

3 評議員会開催状況 (評議員総数 18名)

| 開催年月日 | | | 議 題 | | 出席者 |
|-------|-------|-----|-------|----------------------------|-----|
| 令和6年 | 5月27日 | 第1回 | 第1号議案 | 社会福祉法人大野城市社会福祉協議会理事の選任について | 18名 |

| | | | | | |
|------|--------|-----|----------------------|--------------------------------------|-----|
| | 6月24日 | 第2回 | 第2号議案 から 第4号議案 | 令和5年度社会福祉法人大野城市社会福祉協議会事業報告書について 他 | 17名 |
| | 12月19日 | 第3回 | 第5号議案 | 大野城市訪問型サービスD（移動支援）事業の実施について | 13名 |
| 令和7年 | 3月26日 | 第4回 | 第6号議案 から 第7号議案 | 社会福祉法人大野城市社会福祉協議会令和7年度事業計画書（案）について 他 | 15名 |

2. 専門委員会

法人運営費

1 専門委員会開催状況

| 委員会名 | 開催年月日 | 議 題 |
|-------|-----------|-------------------------|
| 広報委員会 | 令和6年4月10日 | 社協だより197号 2024.5.15について |
| | 7月26日 | 社協だより198号 2024.9.15について |
| | 8月8日 | 社協だより198号 2024.9.15について |
| | 令和7年1月20日 | 社協だより199号 2025.3.15について |
| | 2月3日 | 社協だより199号 2025.3.15について |
| | 3月26日 | 社協だより200号 2025.5.15について |

3. 情報公表

法人運営費

市民の福祉活動への理解と信頼及び積極的な参加を促すことを目的に、社協だよりやホームページ、財務諸表等電子開示システム等にて情報を公開していく。

4. 寄附受入事業

法人運営費

寄附金は在宅高齢者・障がい者の方への支援事業やボランティアセンター運営事業など社会福祉協議会が行なう民間社会福祉事業に活用されている。

※寄附種別

一般寄附 …… 個人、団体の善意による寄附
 香典返し寄附 …… 故人並びにご遺族のご遺志による寄附
 指定寄附 …… 指定した事業に充てられる寄附
 物品寄附 …… 車いす、紙オムツなど物品による寄附

令和6年度実績

◇寄附受入事業実績

| 寄附種別 | 件数 | 寄附内容 |
|---|------|---|
| 一般寄附 | 56件 | 4,264,668円 |
| 香典返し寄附 | 8件 | 290,490円 |
| 指定寄附 | 2件 | 4,160,000円 |
| (合計) | 66件 | 8,715,158円 |
| ご寄附いただいた財源から福祉車両等を3台購入させていただき、地域への貸出や移動手段を確保するための受託事業などで活用している。 | | |
| 物品寄附 | 126件 | 福祉用品 ・紙おむつ・パット [®] 19件・ポータブルトイレ 5台 ・杖 2本 ・車いす 13台 ・シャワーチェア 3台 ・手摺り 10本・押し車 4台 ・キャスター付バッグ [®] 2台 感染予防 ・マスク 1,033枚 ・コロナ検査キット 4箱 その他 ・食料品 35件 ・衣類 13件 ・生活雑貨 21件 ・おもちゃ 2件 ・文房具 5件・生理用品 3件 ・ペットボトルキャップ [®] 5件 ・ラントセル 1個・ヒーター 6件・ホットカーペット 1件 ・CDラジカセ 1件・囲碁 1件・炊飯器 1件・電動ベッド(調整中) 1件 切手・ハガキ・アルミプラタフは換金し、一般寄附へ |

一税控除の適応について—社会福祉協議会へのご寄附は特定寄附金です。寄附領収証を提示してください。>

個人寄附者

寄附金控除額 = $\left. \begin{array}{l} 1月\sim 12月\text{まで} \\ \text{特定寄附金} \\ \text{総所得の40\%相当額} \end{array} \right\} \text{どちらか少ない額} - 2,000円$

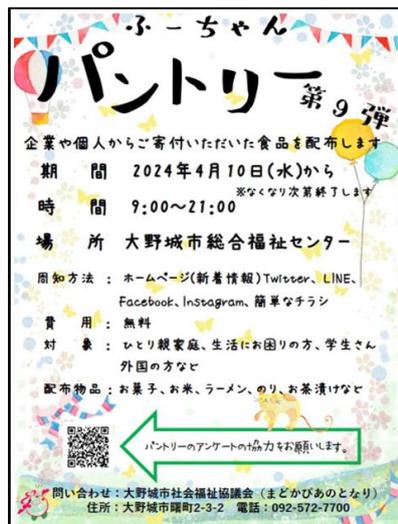
企業寄附者全額損金算入限度額 = $1月\sim 12月\text{まで} (資本金の0.25\%) + (所得の金額の5\%) \div 2$

★但し、税制改正により変更になることがあります。

4-2. フードパントリー

市内の企業等や個人から寄贈いただいた食料を活用し、夏休みに合わせ『ふーちゃんパントリー』を実施した。パントリー開催期間中、多くの市民の方に食料品の協力もいただき、支援の輪も広がった。

第12弾は「赤い羽根 ポスト・コロナ（新型コロナウイルス）社会に向けた福祉活動応援キャンペーン生活困窮者への緊急支援活動助成」を受け、12月22日（日）には「ふくし・くらしのなんでも相談×ふーちゃんパントリー」として開催。「コロナが終わったと思ったら今度は物価高で生活が大変」「食費を切り詰めるしかない」など切実な声や、「食品も日用品もとても助かる」と品物を手にされた方から感謝の声もいただいた。



4月10日より5月2日まで開催



7月19日より8月19日まで開催



10月18日より11月17日まで開催

赤い羽根 「ポスト・コロナ（新型コロナウイルス）社会に向けた福祉活動応援キャンペーン生活困窮者への緊急支援活動助成」



12月23日より12月28日まで



12月22日開催 ふくし・くらしのなんでも相談×ふーちゃんパントリー

<地域課>

5. 社協会員推進事業

法人運営費

日ごろの福祉や、もしもの時の安心につながる地域福祉の取り組みに賛同頂き、必要な財源を支えてくださる方を社協会員として、行政・区長・隣組長さんや福祉団体や事業所の協力のもと、啓発・推進を進めている。集まった社協会員の一部は、市内行政区に地域福祉活動費として社協会員会費を、共同募金配分金とあわせて交付を行う。毎年、チラシ兼申込書の訴求性を上げることと、加入しやすさをはかるために、作り変えを行っている。



| 令和6年度合計 | | |
|----------|----------|--------------|
| 件数 | 口数 | 金額 |
| 11,110 件 | 23,602 口 | 11,552,201 円 |
| (前年度比) | | |
| 104.13% | 103.65% | 100.29% |

6. 第1期大野城市地域福祉活動計画

法人運営費

大野城市において地域福祉を推進していくにあたり、大野城市が策定する「地域福祉計画」と社協が策定する「地域福祉活動計画」を一体化した『大野城市地域福祉活動における市民活動推進計画』を、3期9年にわたり進めてきた。令和6年度からは、市は地域共生社会実現に向けた市独自の地域福祉計画を策定し、社協は市の地域福祉計画と連携し、地域共生社会の実現に向けた、より総合的で実践的な目標の体系である「第1期大野城市地域福祉活動計画」を作成した。この中で7つの重点事業の6年間の事業計画を掲げて、その事業の進捗管理を行う大野城市地域福祉活動計画評価委員会で、主に7つの事業の進捗状況に対しての意見やアドバイス等を出し合い、今後の事業に反映する。

◇大野城市地域福祉活動計画評価委員会… 2回開催

| 開催年月日 | | 議 題 | 出席者 |
|-------|--------|--|-----|
| 令和6年 | 9月13日 | ★これまでの経緯説明 ★委員長・副委員長の選任について ★第1期大野城市地域福祉活動計画について | 9名 |
| | 12月18日 | ★地域福祉活動計画の策定の経緯説明 ★7つの重点事業説明と進捗状況の報告 | 9名 |

1 第1期計画における重点事業

- ① 食の確保隊
- ② ふだんのくらしアシストセンター（総合相談窓口）
- ③ 社会福祉法人と地域とのつながり
- ④ 地域福祉へのいざない事業
- ⑤ 地域における外出手段を充実するための事業
- ⑥ 大野城市ボランティア・市民活動フロント事業
- ⑦ 権利擁護事業に関する取り組み強化と利用促進



① 食の確保隊

| 評価数値算定方法 | 評価数値目標 | 半期ごと評価数値 | |
|-----------------------------------|--------------|-----------|-----------|
| アウトリーチし直接支援した件数① 地域活動につながった件数② | 60% [②/①] | 9月 20% | 3月 50% |

② ふだんのくらしアシストセンター（総合相談窓口）

| 評価数値算定方法 | 評価数値目標 | 半期ごと評価数値 | |
|---|----------------|-----------|-----------|
| アンケートにてアシストセンター相談 窓口を知っている人① アンケート総数② | 60% [算式①/②] | 9月 50% | 3月 59% |

③ 社会福祉法人と地域とのつながり

| 評価数値算定方法 | 評価数値目標 | 半期ごと評価数値 | |
|-----------------------------|--------|----------|-----------|
| 仕組みの完成を100とし、進捗状況で評 価する。 | 100% | 9月 0% | 3月 20% |

④ 地域福祉へのいざない事業

| 評価数値算定方法 | 評価数値目標 | 半期ごと評価数値 | |
|------------------------------------|--------|---------------|-----------------------|
| 学び合う場への参加者数① 地域活動の参加者② [②/①] | 80% | 9月 ① 254/人 | ① 70人 ② 65人 92% |

⑤ 地域における外出手段を充実するための事業

| 評価数値算定方法 | 評価数値目標 | 半期ごと評価数値 | |
|---------------------------------|--------|-----------|-----------|
| 月次管理表にて増加件数(累計)確認 | 30件 | 9月 41件 | 3月 81件 |
| 利用者アンケート① アンケート高評価② [②/①] | 90% | — % | 100% |

⑥ 地域における外出手段を大野城市ボランティア・市民活動フロント事業

| 評価数値算定方法 | 評価数値目標 | 半期ごと評価数値 | |
|-------------------------------|-------------------|-----------|-----------|
| ボランティア受付者数① 活動につながった件数② | 100% [算式②/①]=③ | 9月 85% | 3月 91% |
| ボランティアアンケート総数④ やりがいを感じる件数⑤ | 100% [算式⑤/④]=⑥ | 100% | 100% |

⑦ 権利擁護事業に関する取り組み強化と利用促進

| 評価数値算定方法 | 評価数値目標 | 半期ごと評価数値 | |
|----------------------------------|--------|---------------------|-------------------|
| アンケート総数① 権利擁護を知っている② [②/①] | 60% | 9月 <u>72.2 %</u> | 3月 <u>73 %</u> |
| 気軽に相談できる場所を知っている③ [③/②] | 100% | <u>33.3 %</u> | <u>80 %</u> |

7. 地域福祉推進事業

法人運営費

令和6年度実績

共募／福祉育成・援助活動

1 福祉委員会活動事業(第21期)

各区より福祉委員を委嘱し、定例会議を実施している。

定例会の開催

| 日程 | | 内 容 |
|------------|-----|---|
| 令和6年6月12日 | 第1回 | ・グループワーク 「各区の福祉活動について～ミニデイなど集まる活動～」 |
| 令和6年8月26日 | 第2回 | ・全員研修 「サロン活動推進のための繋がり上手」～『見守り活動・傾聴9つの心得』～ 講師 松尾やよい氏 (motto ひょうご事務局次長) |
| 令和6年12月11日 | 第3回 | ・定例会 (視察研修) ・懇親会 |
| 令和7年2月12日 | 第4回 | ・グループワーク 「1年間の活動をふり返って」 |

2 福祉育成援助活動

28区の行政区に地域福祉活動費として共同募金配分金を交付。

3 地域ケア会議

目的：高齢者の状況を中心に市（基幹型地域包括支援センター）、地域、民生委員、福祉委員、各地区地域包括支援センター、社会福祉協議会がさまざまな情報を共有し、地域での見守り活動や支援活動を推進することを目的に開催され、社協からも構成員として出席している。

社協から伝える情報を会議参加者と共有するために、社協のサービス利用者情報一覧を会議時に配布し、会議参加者での情報共有を行った。

4 各区の地域福祉推進委員会との協議

各地域で定例的に開催されている地域福祉推進委員会(福祉部会)の会議等に、社協職員はコミュニティーワーカーとして各地域の福祉活動を支援している。

会議の進め方は地域の主体性に委ねるところが多いが、ほとんどの地域で社会福祉協議会からの情報提供の時間が用意され、福祉委員からも推進委員へ社協の状況を伝える区が増えた。コロナ禍を経て、新たな取り組みを展開される地域や柔軟な活動をされる地域が増えた。

5 各地区コミュニティ福祉部会の開催状況

各コミュニティで定例的に開催される福祉部会の会議に、社協職員はコミュニティワーカーとして各コミュニティの地域福祉活動を支援している。

(開催回数 29回)

| 各地区福祉部会 | 定例会開催回数 | 主な活動 |
|---------------------|---------|---|
| 南地区コミュニティ運営協議会 福祉部会 | 11 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・南地区コミュニティ福祉部交流のつどい ・部員研修 ・南コミまつり ・南地区コミュニティ番茶の会 ・いきいき健康教室 |
| 中央地区コミュニティ運営協議会福祉部会 | 7 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度事業計画等について ・福祉推進委員の集い 各区の昨年度活動報告および令和6年度事業の事業報告、認知症サポーター講習 ・令和6年度のふれあいの会(軽スポーツレクリエーションを通じた高齢者の交流会)および令和7年度のふれあいの会開催仕様について |
| 東地区コミュニティ運営協議会 福祉部会 | 5 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・各区福祉部活動情報交換 ・市出前講座『高齢者ICT見守りについて』 ・各区の番茶の会について報告 ・令和7年度の番茶の会開催要項について臨時協議 ・区長を囲んで意見交換会 |
| 北地区コミュニティ福祉部会 | 6 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・北地区福祉推進委員合同研修会 ・北地区 MADOKA れくスポ祭(車いす体験・五目お手玉・ハンディキャブ紹介) ・北地区楽しく語ろう、番茶の会 ・認知症研修会 ・視察研修 |

6 民生委員児童委員連合協議会活動との協働

- ◇大野城市民生委員・児童委員連合協議会専門部会の研修において「ふーちゃんゼミナール」を活用して頂き、制度や事業について知識を深める時間を共有することができた。
- ◇地域ケア会議などで見守りが必要な方々の情報の共有・連携をしている。

- ◇民生委員児童委員連合協議会は、民生委員法及び児童福祉法に基づき要援護者の見守り等、各区の福祉委員とともに地域福祉のキーパーソンとして活動がなされている。
- 社会福祉協議会の心配ごと相談(無料法律相談)・生活福祉資金貸付・学校における福祉教育などを協働しておこなっている。

7 ふーちゃんゼミナール

社協の職員が講師またはコーディネーターとなり、地域福祉や在宅福祉、障がい者福祉などをテーマにした出前講座「ふーちゃんゼミナール」を行っている。利用申込先と打ち合わせを重ねながら、希望に沿った内容を作っていた。

ふーちゃんゼミナール開催状況

| 開催日 | 内容 | 受講団体名 | 参加者数 | 担当職員・協力団体 |
|--------|------------------------------|--------------------------|------|--------------------------|
| 4月24日 | 介護体験してみませんか？ | 平野台区福祉部 | 28名 | 幸・石本・大北 |
| 4月30日 | 介護体験してみませんか？ ※公開講座 | とっ・と一・たい | 10名 | 幸・山内・原田 |
| 5月23日 | お薬の正しい飲み方 | 井の口福祉部 | 40名 | 筑紫薬剤師会 ・石本 |
| 5月23日 | 地域福祉推進活動とは | 下大利区 愛のネットワーク | 20名 | 原田・山内 |
| 5月28日 | コミュニケーションマーじゃん ※公開講座 | とっ・と一・たい | 12名 | 石本・原田・山内 |
| 6月22日 | コミュニケーションマーじゃん | 中区シニアクラブ | 40名 | 永田・松田 |
| 6月25日 | 障がいについて ※公開講座 | とっ・と一・たい | 10名 | 幸・原田・山内 |
| 6月28日 | 介護サポート体験 | 牛頸区地域福祉推進委員会 | 37名 | 幸・永田・西村 |
| 7月9日 | 介護サポート体験 | 中区福祉部 | 25名 | 幸・永田・岡部 |
| 7月11日 | コミュニケーションマーじゃん | 栄町福祉推進会 | 28名 | 原田・山内 |
| 7月23日 | 認知症について ※公開講座 | とっ・と一・たい | 6名 | 幸・原田・山内 |
| 9月24日 | 移送サービス ※公開講座 | とっ・と一・たい | 6名 | 大北・岡部 石本・原田 |
| 10月3日 | 正しいお薬の飲み方 | 上筒井福祉部 | 40名 | 筑紫薬剤師会・ 原田 |
| 10月29日 | 正しいお薬の飲み方 ※公開講座 | とっ・と一・たい | 6名 | 筑紫薬剤師会・ 原田 |
| 10月29日 | 認知症について | 大野城傾聴ボランティアダンゴ | 10名 | 幸 |
| 10月30日 | 住民がつくる高齢者の移動・ 外出支援の仕組みと事例 | - | 34名 | NPO 法人全国移動 サービスネットワーク |
| 11月5日 | コミュニケーションマーじゃん | 乙金東福祉部 | 30名 | 永田 |
| 11月10日 | 介護保険とやらについて | (社会福祉法人)福岡県母子寡婦福祉 連合会 | 300名 | 福島 |
| 11月20日 | 赤い羽根共同募金 | 北地区民生委員児童委員連 協議会 | 21名 | 山内 |

| | | | | |
|--------|---------------------|-----------------------|-----|----------|
| 11月26日 | 向こう三軒両隣って ※公開講座 | とっ・と一・たい | 6名 | 山内・原田 |
| 12月14日 | 高齢者への接し方 | 中区シニアクラブ | 11名 | 幸・馬場 |
| 1月15日 | コミュニケーションマージャン | 北地区民生委員児童委員 協議会 | 21名 | 原田・山内 |
| 1月28日 | 成年後見制度について ※公開講座 | とっ・と一・たい | 6名 | 井上・山内 |
| 2月13日 | コミュニケーションマージャン | 栄町福祉推進会 | 28名 | 原田・西村 |
| 2月21日 | コミュニケーションマージャン | 北パートナーシップ 活動支援センター | 15名 | 原田・西村 |
| 2月25日 | ボランティアについて ※公開講座 | とっ・と一・たい | 6名 | 石本・西村 |
| 3月1日 | LINEの使い方講座 | 中区福祉部 | 32名 | 馬場・石本 |
| 3月25日 | 生活福祉資金について ※公開講座 | とっ・と一・たい | 6名 | 小川・原田・山内 |

14団体 28回 参加人数延べ834名

8 法外援護対策

大雨や台風接近時、業者から組布団を借入し、公民館に避難者の受け入れ状況を確認し、布団の搬入を行った。

令和6年度実績

令和6年台風10号
14公民館に60組の布団支援

火災お見舞い
6月7日(金)市内在住者宅全焼による火災お見舞い1件

9 コミュニケーションマージャン貸出状況

各区で行われているミニデイや、各団体のレクリエーション等で、仲間づくりや特に男性の参加者をもっと増やすことを目的に、コミュニケーションマージャン(2セット)を貸出している。

| 貸出地区・団体 | 貸出回数 |
|-------------|------|
| 下大利愛のネットワーク | 1回 |

10 (仮称) 認知症地域見守り訓練

大がかりな声かけ訓練の実施はなかったが、ふーちゃんゼミナールで認知症をテーマにした講座は複数回利用があり、依然として認知症に対する市民の関心は高い状況にある。今後も認知症について正しく理解してもらえるよう啓発を行っていく。

11 区長と社協との懇談会

わがまち大野城市の地域共生社会をめざして、伴に地域福祉を推進することを目的に、区長と社協の懇談会をコミュニティごとに開催した。令和6年度は下記の内容で意見交換を行った。

【開催日】 南コミ 7/9(火)
中央コミ 7/24(水)
東コミ 7/31(水)
北コミ 8/8(木)

【意見交換テーマ】①社協会員制度について
②地域ケア会議について



南コミ区長と社協の懇談会

12 大野城市民総ぐるみ防災訓練

11月30日(土)に市内小中学校、各公民館、各コミュニティセンターで開催され、社協は福祉避難所への職員派遣及び、社協所有機材稼働確認訓練をおこなった。

令和6年度大野城市民総ぐるみ防災訓練社協所有機材稼働確認訓練

- 日時 令和6年11月30日(土)14:00から16:00
- 場所 大野城市総合福祉センター
- 参加者 高原局長 金丸課長 井上室長 石本主事
- 訓練内容 本会が所有する機材(発電機、高圧洗浄機)の取扱い方法並びに動作の確認

13 マンション暮らしのあれこれ講座

マンション管理士による、マンション管理に関する個別相談会を開催したほか、イベント内で相談コーナーの設置にご協力いただいた。

事業名:マンション暮らしの相談会
日時:令和6年6月2日(日)9時20分~11時50分
会場:大野城市総合福祉センター 相談室
相談:2組
協力:(一社)福岡県マンション管理士会

事業名:おおのじょうふくしフェスティバル マンション暮らしの相談コーナー
開催日:令和6年11月24日(日)10時30分~16時
会場:大野城まどかびあ内
協力:(一社)福岡県マンション管理士会
内容:啓発チラシの配布

事業名:第2回マンション暮らしのあれこれ講座
開催日:令和7年3月1日(土)
会場:大野城市総合福祉センター
講師:(一社)福岡県マンション管理士会 理事 山内 崇明 氏
参加者:24名

8. 社会福祉法人のネットワークの構築

法人運営費

平成30年7月に設立された社会福祉法人連絡会に参加し、それぞれの分野を活かした社会福祉法人相互の連携・協働の取組を進めている。

| 日程 | | 内 容 |
|-----------|-------|---|
| 令和6年8月2日 | 総会 | <ul style="list-style-type: none">・令和5年度事業報告・収支決算報告について・令和6年度事業計画（案）・収支予算(案)について・意見交換・各法人からの報告等・コロナウイルス感染症に関する特例貸付に関する報告 |
| 令和6年9月11日 | 実務者会議 | <ul style="list-style-type: none">・「よりそい大野城」について |

9. 大野城市生活支援体制整備事業(市受託事業)

1 大野城市生活支援体制整備第1層協議体(もやいネット大野城)の開催

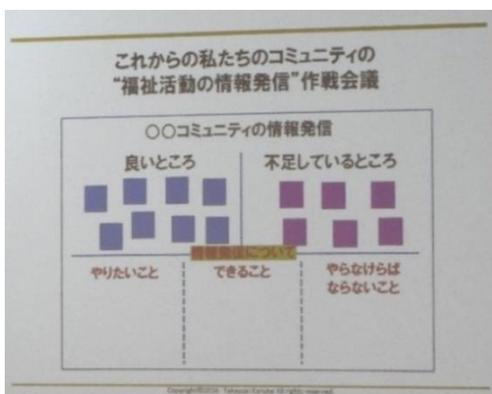
◆もやいネット大野城(市全域 第1層協議体)

初年度の第1回は委員長および半数近い委員交代のため委嘱状交付式を実施。今年度の協議内容は、これまでの振り返りや、各第2層協議体の活動報告および委員からの意見を基に総合して課題だと思われるキーワードが「情報発信」であることの認識を共有した。また第3回拡大版では、「情報発信」のテーマを基に、ワールドカフェスタイル形式での意見交換をされた。また、令和6年度は、高齢者の生活向上・生きがい創造・介護予防に役に立つ情報冊子「暮らしのもやい帳」第5版を発刊し、令和6年度の発刊は、市所管が管轄となる。

委員:15名

学識経験者、区長会、民生委員児童委員連合協議会、福祉委員会、筑紫医師会、シニアクラブ連合会、社会福祉法人、福祉事業所、ボランティア連絡協議会、シルバー人材センター、企業、各第2層協議体委員

| 開催日 | 内 容 |
|---------------------------------|--|
| 第1回 令和6年7月1日(月) | 委嘱状交付、市長あいさつ ・委員長及び副委員長の互選 ・自己紹介 協議事項 1)もやいネット大野城のこれまでと今後のスケジュール [事務局] 2)第2層協議体報告(地区SC) 3)情報交換 ※ワールドカフェ形式で情報交換 |
| 第2回 令和6年8月31日(木) | 協議事項 1)報告:第2層協議体報告(地区SC) 2)報告:7/1第1回における委員からの意見と2層シートに記載された課題 ・地域や支え合いにおける「情報発信」 |
| 第3回 令和6年10月31日(木) ～ 拡大版 ～ | 議題 もやいネット大野城の経過報告 協議事項 ・テーマ「情報発信」について ・日々の活動の中で感じていることを基に、情報共有・意見交換を実施。 |
| 第4回 令和7年3月27日(水) | 連絡事項:公園の利活用について/公園街路課 議題 ・第2層協議体の取り組みについて ・地域や支え合いにおける「情報発信」について ・今後のスケジュールについて 1)『(仮称)暮らしの総合サポート事業 孫の手』 2)大野城暮らしのもやい帳(第5版)発行しました 3)『福祉バスを活用した買物支援』 |



▲令和6年10月31日 テーマ「情報発信」について協議の内容と様子

2 第2層協議体の状況

◆もやいネット南(南地区第2層協議体)

南地区コミュニティ運営協議会と大野城市の共働による取組みである南地区高齢者移動支援事業「ふれあい号」の利活用について「ふれあい号運行外車両活用」実施要項の報告をされた。社協は区を対象とした「ハンディキャブの貸出」事業開始を報告。また、移動手段と詐欺啓発について協議を重ね取組みを実施されている。ほか、スマートフォンを活用した、南地区独自の「行方不明者捜索」の取組みについて周知方法などを検討中である。

委員:28名

南コミ運営協議会会長,副会長(各区长),民生委員,南コミュニティ運営協議会福祉部,NPO 事業部班長,南地区シニアクラブ世話役,南コミュニティ運営協議事務局長・総務,南地区地域包括支援センター管理者・生活支援コーディネータ(SC略),基幹型地域包括支援センター,社協

| 開催日 | 内容 |
|---------------------|---|
| 第1回 令和6年6月21日(金) | 委員メンバー自己紹介、運営要綱について 報告事項 ・もやいネット南の目的と役割[社協] ・令和5年度もやいネット南概要 [南コミュニティ事務局] ・公園利活用について報告 [すこやか長寿課] 協議事項 ・ふれあい号運行外利用状況について ・地域課題について [各区より報告] ・ラインを活用した南地区独自の「行方不明者捜索」および詐欺被害情報提供 |
| 第2回 令和6年9月26日(木) | 報告事項 ・公園利活用、特殊詐欺被害防止機能付き電話機について報告[すこやか長寿課] ・南地区における各区の高齢化率について[社協] ・令和7年詐欺啓発カレンダー配布について[南コミュニティ事務局] 協議事項 ・テーマ「5年後の南地区がこうなっていたらいいな」ワークショップを実施 |
| 第3回 令和7年2月27日(木) | 報告事項 ・特殊詐欺被害防止機能付き電話機(購入費用補助及び貸出)について[事務局] ・もやいネット大野城拡大版の報告 協議事項 ・各区の地域課題について ・テーマ「5年後の南地区がこうなっていたらいいな」ワークショップについて。 |



| 令和6年9月26日(木) ワークショップ | | テーマ 「5年後の南地区がこうなっていたらいいな」 | |
|--|---|---|---|
| 課題・問題 公共事業まで実施が行ける「区」が作れた 区民が参加できている ふれあい号の活用が進んでいる オンライン交流が増えて高齢者の孤立が少なくなった 介護度が低下し生活が楽々→高齢者が自由に移動システムが完成 生活支援の「健康・介護・生活援助」が実現している ふれあい号・車椅子の確保 移動支援の確保(のネット・オンデマンドなど) 高齢者・高齢者の移動(徒歩・自転車・バス)が楽々 バスの路線(コミュニティのイベントに準拠できない) エリアで歩きやすい環境が実現 高齢者の生活が楽々になっている 高齢者の生活が楽々になっている 高齢者の生活が楽々になっている | 目標 区民が楽しくなる(話しやすい)ように 高齢者や子どもの声が聞こえる場を確保 高齢者の生活が楽々になる場を確保 高齢者の生活が楽々になる場を確保 | 公開 公共事業に民間企業が参加している さまざまな高齢者が参加している場が実現 高齢者が安心して参加できる場が実現 | 狙い・期待の役割 高齢者・子どもが参加できる場が実現 高齢者の生活が楽々になる場が実現 プラス・サービスが実現している |
| | | | |
| 課題・問題 高齢者の生活が楽々になっている 高齢者の生活が楽々になっている 高齢者の生活が楽々になっている | 目標 高齢者の生活が楽々になっている 高齢者の生活が楽々になっている 高齢者の生活が楽々になっている | 公開 高齢者の生活が楽々になっている 高齢者の生活が楽々になっている 高齢者の生活が楽々になっている | 狙い・期待の役割 高齢者の生活が楽々になっている 高齢者の生活が楽々になっている 高齢者の生活が楽々になっている |

▲令和6年9月26日 テーマ「5年後の南地区がこうなっていたらいいな」協議の様子と内容

◆中央まどかネット(中央地区第2層協議体)

中央地区では地域共生社会の実現のための初段階として、地域の触れ合いの場居場所として地域カフェの必要性を協議し、地域カフェ立ち上げについて話し合いをされている。第2回目は、中央地区コミュニティ運営協議会事務局の声掛けにより、地域カフェを開催されている各区からオブザーバーとして、下大利区の文化部会部長と、下大利団地の福祉委員に参加いただいた。また、地域カフェの開催が公民館外から分かりにくいとの意見を反映し、のぼりを事務局で準備し、各区で開催時に活用いただいた。

委員:22名

中央コミュニティ運営協議会会長・副会長,各区长,各区の福祉推進委員会代表(各1~2名),中央コミュニティ事務局長,基幹型地域包括支援センター SC,中央地区地域包括支援センター SC,社協

| 開催日 | 内 容 |
|---------------------|---|
| 第1回 令和6年5月24日(金) | 報告事項 委員自己紹介、令和5年度振り返り 協議事項 各区の気軽に通える交流の場、集いの場について意見交換 |
| 第2回 令和6年9月13日(金) | ※第2回8月30日予定していた会議が台風影響により9月に開催。 報告事項 第1回目の振り返り 協議事項 ・各区の気軽に通える交流の場、集いの場について意見交換 (オブザーバーとして下大利区文化部長、下大利団地区福祉委員の区地域カフェ主催者側の進捗報告と意見交換を実施) ・カフェを開催している場所がわかりづらいと意見があり、運営協議会事務局より、共通の「のぼり」【写真あり】を各区に配布。 ・第3回もやいネット大野城拡大版について委員選任依頼について[社協] |
| 第3回 令和6年11月8日(金) | 報告事項 第2回まどかネットの振り返り 協議事項 ・地域カフェについて情報共有 ・令和6年度第3回もやいネット大野城拡大版での協議事項「情報発信」について報告および意見交換 |
| 第4回 令和6年2月14日(金) | 報告事項 第3回まどかネットの振り返り 協議事項 ・地域カフェについて情報共有 |



◀地域カフェ開催時に「カフェの“のぼり”」を活用中



▲各公民館での地域カフェの様子

◆東コミ福祉包括ケアシステム実行委員会(東地区第2層協議体)

「第2次まちづくり計画」の中から、「高齢者など支えが必要な人に寄り添う“支え合い”のまちづくり」をテーマに協議を進めている。行方不明者が発生した際の体制としてSOS ネット検索体制が構築されており、第2回は、もやいネット大野城(拡大版)を参考に要援護者の洗い出しのグループワークを行われ、見守り体制を整えるための取り組みについて協議された。

委員:23名

東コミュニティ運営協議会委員長,副委員長,民生委員・児童委員,福祉部長,東地区地域行政センター,東地区パートナーシップ活動支援センター,東コミュニティ運営協議会事務局,すこやか長寿課,東地区地域包括支援センター,社協

| 開催日 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 令和6年 8月22日(木) | 報告事項 ・第2次まちづくり計画に基づく実行委員会の進め方について ・[第1次計画の振り返り、第2次計画の経緯について説明] 協議事項 ・3つの課題について[人材不足、人とのつながり、災害に対応した見守り] |
| 第2回 令和6年 11月7日(木) | 第3回もやいネット大野城(拡大版)を参考に要援護者洗い出しのグループワークを実施 報告事項 ・第1回目振り返りおよび第3回もやいネット大野城協議「情報発信」について報告 協議事項 ・新たな時代の見守りについて |
| 第3回 令和7年 1月23日(木) | 見守り体制を整える為の3つの取組について。 1) 見守り体制づくり～福祉と防災から～ 2) 認知症 SOS ネット検索訓練の実施について。 3) 東地区における買物支援のニーズについて。 |

◆北地区地域包括ケアシステム協議会(北地区第2層協議体) 開催回数:5回(年間計画あり)

「高齢者等が健康で愉しく過ごせるまち」の実現を最終目的にしており、令和5年度は①認知症対策で取り組みを継続し、知識の深化、理解の輪を広げる。②各区の情報共有など行い地域を知り理解を深めることを目標に取り組みされている。協議は、北地区コミュニティ福祉部会と同日開催。また、2カ月に一度北コミュニティが発行されている「北コミ通信」にて北地区地域包括支援センターの生活支援コーディネーター(SC)が、高齢者等が健康で愉しく過ごせるまちをテーマに情報発信を行っている。

委員:27名

北コミ運営協議会会長,北コミ運営協議会副会長,事務局長,コミ福祉部(部会長,副部会長),コミ福祉部会(各区福祉委員,各区民生委員・児童委員代表),北地区民生委員児童委員協議会会長,行政センター係長,北地区地域包括支援センター管理者,北地区地域包括支援センター SC,社協

| 開催日 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 令和6年 5月8日(水) | ・構成員名簿確認・事業計画・協議会の目的等共有 ・自己紹介、情報交換・見守り訪問不在時カード“どげんですか〜ド”振返り |
| 第2回 令和6年 7月10日(水) | ・“どげんですか〜ド”について意見交換 |
| 第3回 令和6年 9月4日(水) | ・もやいネット大野城(第1層協議体)報告 “どげんですか〜ド”の実物をもやいネット大野城の委員へ配布し関心が高かった。 今後、カードの継続活用と配布件数や、活用結果の発信について報告あり。 |
| 第4回 令和6年 11月6日(水) | ・もやいネット大野城拡大版グループワークでの意見交換を報告 ・認知症研修会について ・情報交換(各区で実施された福祉活動内容について) |

| 開催日 | 内 容 |
|-----------------------------------|---|
| 第 5 回 令和 7 年 1 月 8 日 (水) | 報告事項 ・認知症研修会について ・令和 7 年度の事業計画(案)提示 |

3 生活支援コーディネーター連絡会の開催

開催回数:6 回(原則、毎月第 3 水曜日開催)

地域の社会資源調査及び社会資源の整理を行い、第 2 層協議体の進捗情報共有や、社会資源の情報共有や各コミュニティの福祉活動に関する情報交換を行っている。(生活支援コーディネーター 通称:「SC」)

出席者:すこやか長寿課事業担当者,基幹型地域包括支援センター SC(2 名),各地区地域包括支援センター SC(4 名),社協 SC

10. 広報関係

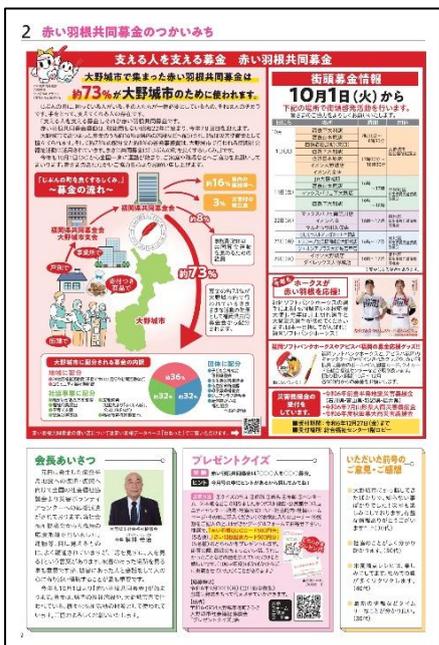
共募／福祉育成・援助活動事業

市内を中心とした幅広い福祉情報を掲載した「社協だより(ふくしんぼ)」を年3回(5月、9月、3月 各月15日)発行。市民はもとより、事業所からも「ふくしんぼを見ました」との声を読者アンケートにより多数いただいている。また、データ版(PDF)を本会ホームページに公開し、ボランティア団体「朗読の会文鳥」の協力により、視覚障がいのある方にも音声を通して情報をお届けしている。

令和6年度実績

1 「社協だより」の発行 (毎号47,500部発行)

主旨： 広く地域の福祉情報を収集発信し、読みやすく、親しみやすい紙面づくりに努めている。
 発行号： 197号(令和6年5月15日(水))・198号(9月15日(日))・199号(2月15日)発行



2 ホームページ等による情報発信

社協活動、全社協 被災地支援・災害ボランティア情報をもとに被災地支援情報等を随時更新し、発信をしている。

3 SNSを活用した情報発信

LINE、YouTube、Instagram、Xを活用しながら、社協の活動や災害ボランティア情報、地域の子育てサロン情報などを積極的に発信し、タイムリーな情報発信を行っている。

11. リフトカー運行事業

リフトカー運行事業

著しく歩行が困難で車いす等を利用している人や、寝たきりの状態で既存の交通機関を利用することが困難な人に対してリフトカー2台の運行を行っている。障がい者や高齢者の社会参加の1つの手段として活用いただくことで、福祉の増進を図ることを目的としている。



令和6年度実績

学校や通院、余暇活動などの送迎をおこなっている。

利用登録者数:60名(前年比+5名)
稼働日数 :258日(前年比+3日) / 利用延べ人数:641人(前年比-48人)

12. 福祉バス運行事業

福祉バス運行事業

地域福祉団体がミニデイや福祉推進委員の視察研修などに使用するほか、福祉団体も各種イベントやスポーツ大会への参加、先進地の視察研修などに使用するなど、多くの団体に活用されている。

令和6年度実績

福祉バス運行状況:乗車26人乗り(マイクロバス)
稼働日数:170日(前年比+15日) / 延べ利用者数 2909人(前年比+229人)
延べ利用団体数:167団体(前年比+14団体)

13. 福祉用具貸出事業

共募/
老人福祉活動事業

在宅生活のため車いすや電動ベッドを必要とするが、介護保険制度を利用することができない場合、または認定が通知されるまでの期間に、車いすと電動ベッドの短期間貸出しを行っている。また、小学校の福祉教育、職員研修やスポーツ祭のためなど、団体への車いす貸出しも増えている。

令和6年度実績

貸出件数:車いす 85件(前年比-10件) 電動ベッド 3件(前年比-10件)
団体貸出件数:車いす 26団体 計77台 (前年比 +7団体 +31件)

14. ハンディキャブ貸出事業

共募／福祉育成

歩行や外出が困難な人に対して社会参加のひとつの手段として車いすのまま乗ることができる軽自動車（ハンディキャブ）を貸出ししている。運転は家族や友人などで気軽に使え、社会参加の1つの手段として、福祉の増進を図ることを目的としている。

また、ハンディキャブの新たな活用方法として、令和5年10月から利用対象を「区」へ広げ、地域行事やミニデイなどに参加しやすくなるように貸出を行っている。

令和6年度実績

利用登録者数:51名(前年比 +19名)

ハンディキャブ貸出事業実績

稼働回数:121回(前年比 +55回) / 延べ利用者数129人(前年比 +60人)

※内地域利用19回/延べ利用者数41人



15. 高齢者福祉対策事業

共募／
老人福祉活動事業

大野城市の高齢化率は、22.6%(令和7年3月末現在)と近年少しずつ増加している。今後も高齢者数は増加傾向にあり、日頃から会員相互で活動しているシニアクラブの活動は、仲間づくりや生きがいづくりを目的の一つにしていて、高齢者福祉施策の大事な活動になっている。

令和6年度実績

1 大野城市シニアクラブ連合会に対する活動援助

シニアクラブ連合会では、活力ある長寿社会の実現に向けて、生きがいと健康づくりや長年培ってきた知識、経験を地域社会のために生かす取り組みや、通学路における小学生の見守り活動等を展開されている。

職員派遣①

期 日：令和6年5月14日(火)

場 所：大野城市総合グラウンド

内 容：第33回大野城市シニアクラブ連合会ペタンク大会

職員派遣②

期 日：令和6年6月4日(火)

場 所：大野城市総合グラウンド

内 容：第32回大野城市シニアクラブ連合会グランドゴルフ大会(個人戦)

職員派遣③

期 日：令和6年10月22日(火)

場 所：大野城市総合グラウンド

内 容：第39回大野城市シニアクラブ連合会グランドゴルフ大会(団体戦)

2 大野城市シニアクラブ連合会への助成

共同募金配分金の助成による活動支援と会員相互の健康保持のための活動や各スポーツ大会、シニア歌謡音楽祭、見守り訪問活動などの活動を支援している。

16. 身体障がい者福祉対策事業

共募／障がい

身体障がい者福祉協会や障がい者施設団体連絡協議会等、当事者組織と連携を図り、ハンディを持つ人たちの社会参加をサポートしながら、当事者団体が企画する事業や会議に社協からも出席し、必要に応じての支援や情報提供を行っている。

- 1 翔んでふれあって2024（大野城市障がい者大運動会）
中止

- 2 重度障がい者社会参加事業
中止

- 3 大野城市身体障がい者福祉協会への支援

共同募金配分金での助成を行なうとともに、事業の実施における活動支援をおこなった。

- 4 大野城市障がい者施設団体連絡協議会への支援

◇ほっとすぽっと「サン・サン」の支援(基本第2・4土曜日/まどかぴあ)

◇大野城心のふるさと館内(ここふるショップ)における授産品の販売

◇公開講座

日 時 令和6年6月8日(土)14:00～16:00

講 演 知っていますか、成年後見制度研修

～『親亡き後、重度障がい者が地域で生きてゆくために』～

講 師 原田隆行氏 NPO 法人高齢者・障害者安心サポートネット)

参加者 51名

17. 知的障がい児者福祉対策事業

共募／障がい

ふれあいの旅は、ハンディのある人とボランティアと一緒に時間を過ごすことでお互いの成長につながる旅である。令和6年度で42回目を迎え、近年では日帰りで開催し、長年参加されているボランティアや新規ボランティアとの交流の機会にもなっている。令和6年度は7月14日(日)・9月29日(日)の2回に分けて行った。

令和6年度実績

- 1 ふれあいの旅2024（第42回）

期 日 : 令和6年7月14日(日)・9月29日(日) 計2回

場 所 : 大分県別府市方面(ドローンサッカー操縦体験、太陽ミュージアム見学など)

参加者 : 7月14日(日):54名(参加者25名、ボランティア24名、職員3名、看護師1名、
添乗員1名)

9月29日(日):60名(参加者25名、ボランティア30名、職員3名、看護師1名、
添乗員1名)

- 2 大野城市手をつなぐ育成会への助成

共同募金配分金をとおり、その活動の助成を行っている。

18. 子育て支援事業

共募/
児童青少年

大野城市に転入して間もない親子や、子育てに悩む親の支援、居場所や仲間づくりを支援するサークル登録、保育所への遊具設置など、子育て時期の不安や孤独感を軽減し、親と子どもたちが安心して過ごせる場を提供し、子育てしやすい環境づくりを図っている。

令和6年度実績

1 子育てサロン情報の配信

安心して子育てできる環境を目指し、地域のサロンや、登録サークルの活動内容や市内外の子育て支援に関する情報などをホームページや SNS で発信している。

子育て支援者と社協のつながりを深め、情報発信量と閲覧者を増やしていきたい。

2 保育所に遊具等の助成【みかさの森保育園】

共同募金配分金より毎年1ヶ所私立保育所へ遊具等の助成を(253,070 円)行なっている。

3 遊具の貸出状況

子どもの健やかな成長を支えること、また、地域での遊びの機会を支援することを目的に、社会福祉協議会に登録している子育てサークル及び各区公民館で開催される子育てサロンに遊具の貸出しを行っている。貸出申請は 18 件。

4 第3回 Link～子育て支援つながろう会(子育て支援者関係構築)

今年度は各区の子育てサロンを取材し、運営状況を把握したうえで困りごとを精査し、解決への糸口を検証する。

19. 児童青少年福祉対策事業

共募/
児童青少年

令和6年度実績

1 大野城市子ども会育成会連絡協議会への助成

共同募金配分金を活用し、子ども会育成会では、「子どもが主役だ・地域で育てよう子どもたち」を主眼に、子どもの健全育成、地域(各単位子ども会)の発展に向けて、活動が展開されている。

2 保護司会への助成

共同募金配分金をとおして、保護司会では保護司信条である社会奉仕の精神をもって、過ちに陥った人たちの更生に尽くされる活動が行われている。

20. 学校における福祉教育

共募／児童青少年

令和6年度実績

1 福祉教育教材「ともに生きる」活用推進

小学校へ希望調査を行い、小学校3・4年生を対象に配布し、教材を基本とした授業を実施した。

対 象 : 市内小学校3年生または4年生、大野城市教育委員会
配 布 数 : 1,300部

2 学校における福祉教育

社協では地域福祉活動計画を策定し、市と連携しながら、多様な主体による福祉教育を実施した。

| | 開催日 | 学校名・学年 | 内容 | ゲストティーチャー |
|----|--------|---------|----------------|---|
| 1 | 6月26日 | 大利小4年 | ボッチャ体験 | 福岡県障がい者スポーツ協会、当事者(身体)、職員(あけぼの園)、大野城市スポーツ推進員 |
| 2 | 6月27日 | 大城小4年 | 視覚障がいのある方との交流 | 当事者(視覚)、ガイドヘルパー |
| 3 | 7月4日 | 下大利小4年 | ボランティア活動って何? | 社協 |
| 4 | 7月8日 | 大野北小3年 | 社会福祉協議会について | 社協 |
| 5 | 9月9日 | 大城小4年 | 身体障がいのある方との交流 | 当事者(身体)、職員(まどか園) |
| 6 | 9月13日 | 大野南小4年 | 視覚障がいのある方との交流 | 当事者(視覚)、ガイドヘルパー |
| 7 | 9月18日 | 大城小4年 | 知的障がいについて | 職員(はまゆうワークセンター大野城) |
| 8 | 9月19日 | 大野小4年 | 車いす体験・福祉車両体験 | 社協 |
| 9 | 9月30日 | 大野小4年 | 車いす体験・福祉車両体験 | 社協 |
| 10 | 10月4日 | 平野小3年 | 視覚障がいのある方との交流 | 当事者(視覚)、ガイドヘルパー |
| 11 | 10月9日 | 下大利小4年 | ボランティアについて知ろう! | ボランティア団体(ファンタジア) |
| 12 | 10月9日 | 大野東小4年 | 視覚障がいのある方との交流 | 当事者(視覚)、ガイドヘルパー |
| 13 | 10月10日 | 大野小4年 | 障がいのある人たちとの交流 | 当事者(視覚、身体) |
| 14 | 10月15日 | 下大利小4年 | ボランティアをやってみよう! | ボランティア団体(ファンタジア) |
| 15 | 10月16日 | 大野南小4年 | ボッチャ体験 | 福岡県障がい者スポーツ協会、当事者(身体)、大野城市スポーツ推進員 |
| 16 | 10月16日 | 御笠の森小4年 | 障がいって何だろう | 当事者(知的)、職員(はまゆうワークセンター大野城) |
| 17 | 10月28日 | 平野小3年 | 手話 | ボランティア団体(手話の会) |
| 18 | 10月29日 | 下大利小4年 | マジック発表・点字 | ボランティア団体(ファンタジア) |
| 19 | 10月30日 | 御笠の森小4年 | ボッチャ体験 | 当事者(身体)、大野城市スポーツ推進員、ボランティア |
| 20 | 10月31日 | 下大利小4年 | ボランティア活動のふり返り | ボランティア団体(ファンタジア) |
| 21 | 11月7日 | 大利小 | 赤い羽根共同募金 | 社協 |

| | | | | |
|----|--------|--------|--------------|-----------------------------------|
| 22 | 11月15日 | 大野南小4年 | 手話 | ボランティア団体(手話の会) |
| 23 | 12月11日 | 月の浦小3年 | 高齢者を支える地域の取組 | 社協 |
| 24 | 1月29日 | 月の浦小3年 | キッズ認知症サポーター | 職員(さわやかテラス大野城、地域包括支援センター) |
| 25 | 2月5日 | 月の浦小3年 | ボッチャ体験 | 福岡県障がい者スポーツ協会、当事者(身体)、大野城市スポーツ推進員 |
| 26 | 2月9日 | 月の浦小3年 | 校区の福祉施設を知ろう | 職員(デイサービスみんなの木) |

3 福祉教育基礎研修会

ともに支え合う心豊かな地域共生社会の実現に向けて、学校と地域がともに学び福祉意識の一体的な向上を目指すことを目的として開催した。

日時 令和6年7月29日(月) 10時～15時
 会場 福岡自治研修センター(愛称:まなびのやど) 中研修室A・B ほか
 対象 (1) 市内教職員
 ・福祉教育推進校の先生
 ・福祉・ボランティア学習を計画している先生
 ・主幹教諭の先生 など
 (2) 地域関係者(区役員、民生委員児童委員、福祉委員など)
 (3) 社会福祉施設職員
 (4) 福祉教育・ボランティア学習に興味のある方 など
 共催 大野城市社会福祉協議会、大野城市、大野城市教育委員会
 協力 一般社団法人福岡県障がい者スポーツ協会、啓発キャラバン隊まどか(大野城市手をつなぐ育成会、大野城市障がい者施設団体連絡協議会)

- (1) 講演 「スクールコミュニティと福祉教育について」
 講師: 大野城市教育委員会 教育支援課 主幹指導主事 平井 源樹 氏
- (2) 基調講演 「学校・地域・家庭の協働による地域共生社会の実現を目指した福祉教育」
 ～学校・地域・家庭が協働して学び合う福祉教育実践～
 講師: 一般社団法人ボランティアセンター支援機構おおさか代表理事・ふくしと教育の実践研究所 SOLA(Social-Labo) 主宰 新崎 国広 氏 (元大阪教育大学教授)
- (3) テーマ別講座
 ① 「福祉教育の観点からの特別支援教育」 講師 新崎 国広 氏
 ② 「パラスポーツ・ボッチャ体験」 講師 福岡県障がい者スポーツ協会 佛坂 晋平 氏
 ③ 「知的障がい疑似体験『障がいってどんなこと?』」
 講師 啓発キャラバン隊まどか 大野城市手をつなぐ育成会 赤井田 八千代 氏
 大野城市障がい者支援センターまどか・ゆいぱる 中野 正人 氏

市内の10小学校の中から福祉教育推進校となる1校を教育委員会・校長会で選定していただき、1期2年として福祉教育教材「ともに生きる」を活用したプログラムを学校・市・社協の三者で取り組んでいる。

コロナ禍を踏まえ、意見交換を行いながら新たな福祉教育プログラムづくりに取り組んだ。

| | | |
|-----|---------------|---------------|
| 第1期 | (平成28年・29年度) | 大野小学校4年生 |
| 第2期 | (平成30年・令和元年度) | 大野北小学校3年生・4年生 |
| 第3期 | (令和2年・3年度) | 大野南小学校4年生 |
| 第4期 | (令和4年・5年度) | 大野東小学校4年生 |
| 第5期 | (令和6年・7年度) | 大利小学校 |

21. 母子父子福祉対策事業

共募／
母子・父子

ひとり親家庭の相談に対する支援(母子会会議での助言や活動支援等)を行なっている。

令和6年度実績

1 大野城市母子寡婦福祉会への支援

共同募金配分金を活用して、大野城市母子寡婦福祉会では、日常における母子家庭の生活の安定等を目指して、自立促進につながる総合的なひとり親家庭の施策を充実するための活動が展開されている。

- ◆福岡県(受託:福岡県母子寡婦福祉連合会)学習支援ボランティア事業の支援
- ◆クリスマス会等の行事支援
- ◆企業からの物品寄附のコーディネート

22. 介護者支援事業

共募／老人福祉

高齢者等の介護をされている家族を対象に、日帰りのリフレッシュ事業などを開催し、介護者同士のつながりをつくることなどを目的として事業を実施している。

令和6年度実績

1 介護者家族のつどい

介護者同士が交流や情報交換を図ることで介護に関する不安や悩みを軽減していくことを目的として、「介護者のつどい」を行ってきたが近年、市内で複数の介護者を対象とした活動(認知症カフェなど)が展開されている。今後もニーズに応じて既存の社会資源を活用しながら介護者支援を活性化していく。

23. ふくしフェスティバル 2024

共募／福祉育
成・援助活動

令和6年度実績

福祉についてより多くの人に知ってもらうとともに、市民の地域福祉活動を推進することを目的として、幅広い層の市民が参加しやすい実行委員会形式で毎年企画・実施しているイベントである。

日 時 令和6年11月24日（日）午前10時半～午後4時
 場 所 まどか広場・市役所南駐車場、大野城市総合福祉センター
 大野城まどかびあ・南側広場、大野城心のふるさと館
 内 容 ステージ発表、映画上映、ボランティア体験コーナー、わくわく縁日、ボッチャ体験、
 権利擁護セミナー、出店コーナー、キッチンカーなど
 来場者数 約8,000人
 主 催 大野城市ふくしフェスティバル実行委員会
 共 催 大野城市・大野城市社会福祉協議会



24. ボランティア活動推進

ボランティアセンター

おおのじょうボランティアセンターでは、対面でのボランティア相談受付のほか、本会ホームページに掲載しているボランティアエントリーシステムなどを活用し、インターネットを用いた活動紹介も行っている。“やってみたい...をやりたい！”にできるよう進めている。

令和6年度実績

1 ボランティア活動相談・コーディネート状況

コーディネート延べ件数 : 153 件[内、ボランティア保険 112 件 587 名加入]

※相談延べ件数 : 41 件

・活動希望・情報収集に関する相談件数 : 22 件

・ボランティアニーズに関する相談件数 : 19 件

※コーディネートを行ったボランティア活動の主な内容

・何かボランティアをしたい、自分にできるボランティアを知りたいという方へ
その方の興味のあることを聞き取ったうえでグループを紹介・活動できる場の提供
(切手整理、学習支援、手話、子育て支援、傾聴、不登校児支援 他)

・やりたい分野が決まっている方へ
団体の代表に確認をとり紹介
(手話の会、点訳サークル、拡大写本、傾聴、朗読の会、子ども食堂、学習支援 他)

・施設(高齢者施設、放課後等デイサービス)や地域からの団体に来てほしいという依頼に対して
施設の希望と団体や、登録している個人の方の予定の調整
(レクリエーション、傾聴ボランティア、三味線、沖縄民謡、手品、ハーモニカ 他)

2 ボランティアセンター運営委員会

運営委員 (4名) : 民生委員経験者、ボランティア連絡協議会、障がい者施設団体連絡協議会、
有識者各1名

開催回数 : 4回

| 開催年月日 | | 議 題 | 出席者 |
|-------|-------|--|-----|
| 令和6年 | 5月10日 | 第1回 ・おおのじょうボランティアのつどいについて ・ボランティア・市民活動フロント事業について | 4名 |
| | 9月18日 | 第2回 ・おおのじょうボランティアのつどいについて ・ボランティア・市民活動フロント事業について | 4名 |
| | 11月5日 | 第3回 ・おおのじょうボランティアのつどいについて ・ボランティア・市民活動フロント事業について | 4名 |
| 令和7年 | 1月10日 | 第4回 ・おおのじょうボランティアのつどいについて ・ボランティア・市民活動フロント事業について | 4名 |

3 被災地（久留米市・石川県各地）での災害ボランティア活動希望者への情報提供・コーディネート等

大野城市民の方々が被災地においてボランティア活動を希望される方への情報提供や、ボランティア保険の手続きを行い、被災地にて気をつけることなどアドバイス等を行いながら送り出しを行った。

被災地での活動人数：10名
 （大野城市社協にて保険手続きを行われた方のなかで、被災地支援を希望された方の人数）

4 ボランティアエントリーシステムの運用

ホームページから簡単に申込ができるようなツールとしてのシステム構築し、ボランティアの募集を行った。今後も随時、気軽に参加できるようなボランティア活動メニューを増やしていく。

募集したボランティア活動メニュー

- ・食料支援 ・運転、送迎ボランティア
- ・ふれあいの旅 ・子育て支援（地域の子育てサロン、親子でリトミックなど）
- ・グループ活動の補助 ・地域および福祉施設のお祭り、行事、イベント 他



5 ボランティアセンター登録

★ボランティア登録者数（団体登録者 982名 個人登録者 187名）

★ボランティア団体登録状況

総合福祉センター1階のボランティアセンターを拠点に活動しているボランティアグループの支援を行うとともに、ボランティアセンターはボランティアの集まり・交流の場として、なくてはならないスペースであり、コピー機や大型プリンターは各種団体や地域の利用も増えている。

◆大野城市ボランティア連絡協議会 構成数 8グループ

| グループ名 | 活動内容 | 会員数 |
|------------------|---|-----|
| 大野城手話の会 | 手話講習会の開催、手話通訳者の派遣、聴覚障がい者との交流会 | 26名 |
| 点訳サークル あゆみの会 | 点訳講習会の開催、各種点訳活動、視覚障がい者との交流会 | 14名 |
| 朗読の会 文鳥 | 朗読講習会の開催、社協だよりや図書の吹き込み、視覚障がい者との交流会 | 21名 |
| スニーカー | 手をつなぐ育成会の支援、知的ハンディを持つ方々とのレクリエーション活動 | 10名 |
| 介護ボランティア ききょう | 特別養護老人ホームでのお手伝い、食事サービス利用者への絵手紙づくり | 13名 |
| おもちゃの図書館 あいあい | 障がいを持つ子どもも持たない子どもも、共に遊ぶおもちゃの図書館の開館、手作りおもちゃの作成 | 12名 |
| 拡大写本 虹の会 | 弱視の方から要請のある図書の拡大写本づくり、視覚障がい者との交流会 | 8名 |
| 大野城要約筆記の会びあ | 聴覚障がい者への文字による同時通訳活動、要約筆記奉仕員養成講座の開催 | 9名 |

◆ボランティアセンター登録グループ 43 グループ

| グループ名 | 活動内容 | 会員数 |
|-----------------------------------|--|------|
| NPO法人 アジア女性センター | 子どもと女性の人権を守るためのサポート事業、海外支援、交流事業、 提言、ネットワーク事業(調査、研究) | 139名 |
| ボランティアグループりんごの会 | 近隣の公民館や福祉施設等で唄や踊り、楽器演奏などを通しての慰問 活動 | 7名 |
| 花の芽クラブ | 障がいのある人とない人が一緒に楽しめる風船バレーボールを通して の交流活動及び普及活動 | 24名 |
| グループファンタジア | 施設や敬老会等でのマジックボランティアやマジックによる各種団体と の交流活動 | 8名 |
| 大野城市国際交流協会 | コミュニティ活動等を活かした国際交流の推進 | 111名 |
| おもちゃ病院大野城 | 壊れたおもちゃの修理を通して子どもたちにものを大切にする気持ちを はぐくむ活動 | 6名 |
| 創人エイサー守破離太鼓 | 各種団体からの依頼による、創作エイサーの披露等 | 20名 |
| 大野城傾聴ボランティア「ダンボ」 | 大野城市内の施設等における傾聴ボランティア活動 | 15名 |
| 大野城学習支援室・かぼちゃ | さまざまな理由から学習支援を求めている小・中学生に対する学習支 援と軽食支援の活動 | 25名 |
| おやのかい MIRAI | 発達障がいや不登校など子育てに悩みを持つ保護者同士の情報共有 や、地域との交流 | 30名 |
| にほんご教室きんしゃい | 留学生等の外国人に日本語を教え、学習することをおして国際交流 を図り会員相互の理解を深める活動 | 7名 |
| 演歌しゃくなげ | 施設等においてギターや三味線、大正琴などの楽器を使って季節の 童謡や歌謡曲、懐メロ音楽を演奏 | 8名 |
| LaLaLa 音楽レクリエーション | 介護予防や認知症予防のための音楽療法やレクリエーションの要 素を取り入れた音楽や、子どもを対象にした音とリズムと歌を楽し む活動 | 7名 |
| いきいき健康レクササイズ | レクリエーションの要素を取り入れた椅子に座ったままできる運動(エク ササイズ)や昔懐かしい歌を取り入れた運動 | 13名 |
| Blue Bear Project | 「音楽を通じて人を元気にするバンド」として高齢者施設等にて活動、交 通事故の予防やニセ電話詐欺の被害防止に関する講話活動 | 10名 |
| なんくる一ず | デイサービスや老人ホーム、公民館等で三味線を使った沖縄民謡や 童謡等の演奏 | 14名 |
| えがおの会「ハレハレ～hare *hale～」子どもの居場所 | 学校に行けない、居場所がないと感じる子どもの居場所をつくる目的と してフリースペース活動、イベント活動などを実施 | 9名 |

| | | |
|------------------------------|---|-----|
| MELODY | やさしい音色で奏で、演者も聴いてくださる方も楽しい時間を過ごしていただきたいと願い活動を行っている | 8名 |
| ハーモニカ風の会 | 仲間づくり、健康づくり、ボケ防止、心と体の健康に必要なのは、笑える仲間づくりと語れる笑いづくり。独奏、合奏などを行う。 | 14名 |
| 防災ほっとキッチン | 災害時にあたたかい食事をとれるように、バッククッキングの普及活動 HUG（避難所運営ゲーム）の普及活動 | 7名 |
| とっ・とー・たい | ボランティア活動を推進するため、会員の経験と知識を活かし、他人や社会に貢献する活動を中心とした、地方公共団体、大野城市社会福祉活動の推進に取り組む団体と、会員の連絡等、良好なボランティア維持および形成に質する共同活動を行うことを目的とする | 22名 |
| スペース虹 | 学校に行けない子どもたちや生活が厳しい家庭の子どもたちの居場所を開設し、食事や学習等を支援し、生活の場を提供する活動 | 26名 |
| 認定 NPO 法人チャイルドケアセンター | 子どもたちを中心に、様々な地域の方が多世代にわたり集い、交流する場（子ども食堂やフードパントリー等）を提供する活動 | 14名 |
| 大野城まどかびあ図書館ブックトークボランティア本のとびら | 小・中学生の朝読や授業で1つのテーマに沿った本（児童書、小説、科学本など）を紹介し、読書の楽しさを知ってもらう活動 | 13名 |
| 一般社団法人 Colorful-HappyFull | 不登校児を抱えるご家庭に訪問し当事者及びそのご家族のカウンセリング、その他様々なプロと繋がるサポートを行う | 15名 |
| スマイルフレンズ | 子育てする親子が、毎回1つのテーマに沿って共感し合いながら友だち作りができる場、情報を提供する場 | 5名 |
| 上大利翔劇団 | 個人の芸の向上と相互の親睦を深め、日頃努力された結果を披露しながら、お年寄りへの憩いのひとときを提供 | 43名 |
| オレンジキッチンわれもこう | 記憶に不安のある方、認知症を知りたい方、一人暮らしの方と一緒に料理を作り、食事をし、話をするサロン | 20名 |
| 琉和太鼓 楽結団 | 「エイサーを楽しみながら縁を結んでいきたい」をモットーに元気と笑顔が共有できる活動を行っている | 10名 |
| 京結美会 | 和文化の継承を志しながら着付けの披露、日本舞踊、懐かしい歌謡曲、手品、ハーモニカ、フラなどを披露 | 6名 |
| 春日ジャグリングクラブ | パフォーマンスの文化を広める目的と交流の場として活動している。ジャグリングだけでなく、皿回し、ルービックキューブ、バルーン、マジックなど様々な活動を行っている | 25名 |
| 特定非営利活動法人 グッドネーバーズ・ジャパン | 「子どもの笑顔にあふれ、誰もが人間らしく生きられる社会」を目指し、子どもと子どもを取り巻く地域住民の生活改善のため、子どもに焦点を当てた活動を中心に「グッドごはん」などの活動を行っている。 | 62名 |
| HOP | 染色体異常、遺伝子異常、医ケア、重症心身、難病のある子どもを対象に、遊びを通して発達を促し、保護者も情報交換できる場所として活動している | 2名 |

| | | |
|---------------------------------|---|-----|
| ぶちらいおん | 子どもの五感大切にしながら、親子が集える場所として活動 | 33名 |
| ままいる | コワーキングスペースままいる一むを開催 | 12名 |
| 中学校のより良い給食を考える会@大野城(みんなの食堂ポラリス) | 市内の中学生にとって安心して食べられる給食について考え、食を通じた人と人とのつながり(地域交流)の活動 | 20名 |
| 親子リミック | 音楽に合わせて身体を動かしたり、親子のふれあいをつくる活動 | 20名 |
| NPO 法人 route | 交通安全防止や、被害者支援事業などを行い、安心安全なまちづくりを目指す | 10名 |
| クロマチックハーモニカひよこ組 | クロマチックハーモニカの演奏や合奏を通して、楽しんでもらえるような活動 | 15名 |
| つながるサポート隊 | 子ども連れでも楽しめるスポットを Instagram にて発信、SNS のサポートなど | 2名 |
| NPO 団体ぶくぶく | 0歳～未就園児を対象に親子の絆を深める場所づくり、ママの「やりたい」を形にする活動 | 2名 |

6 声の広報

目の不自由な方や寝たきりの方に、青年団体連絡協議会が広報「大野城」を録音し、社協職員が録音データを CD にしている。朗読の会「文鳥」は、社協だより「ふくしんぼ」、季節のたより「紙飛行機」、希望図書等を CD に録音。あゆみの会は、社協だより「ふくしんぼ」を点字にしている。当社協から月に2回特定録音物等郵便物にて登録者へ送付。

令和6年度実績

回数: 24回
登録利用者数: 6名

25. 被災地支援活動

法人運営費

令和6年度実績

協議

共募／福祉育
成・援助活動

- 1 令和6年1月1日に発生した、能登半島地震により被災した石川・能登地方及び北陸地方を「見て、食べて、購入して」応援する企画を開催した。

【実施日】 令和6年10月16日(火)～18日(木) 2泊3日
 【参加者】 17名
 【行き先】 石川県珠洲市、七尾市、金沢市 福井県

- 1 日目：すずなり地区被災地視察、和倉温泉屋台村
- 2 日目：千里浜なぎさドライブウェイ、トレインパーク白山、日本自動車博物館、ひがし茶屋街
- 3 日目：東尋坊、永平寺、光る君へ越前大河ドラマ館



- 2 被災地応援「福島県応援ショップ」の運営支援

総合福祉センター1階ロビーにて、「福島県応援ショップ」として福島県南相馬市の特産品等を中心に販売を行っている。購入を通じた支援を行いながら、「つながり」を大切にし、息の長い応援を継続する。福島県応援ショップ休日・夜間の「相馬きゅうり」購入要望に応るため、1階ロビーに自動販売機で販売している。

- 3 石川県珠洲市災害ボランティアセンター・運営支援のため職員派遣

令和6年1月の能登半島地震に伴う災害ボランティアセンター運営支援の応援要請があり、職員を派遣した。

| 支援場所 | 活動日 | 人数 |
|-----------------|-----------------|----|
| 珠洲市災害ボランティアセンター | 4月20日(土)～26日(金) | 1名 |

26. 総合相談事業

総合相談事業

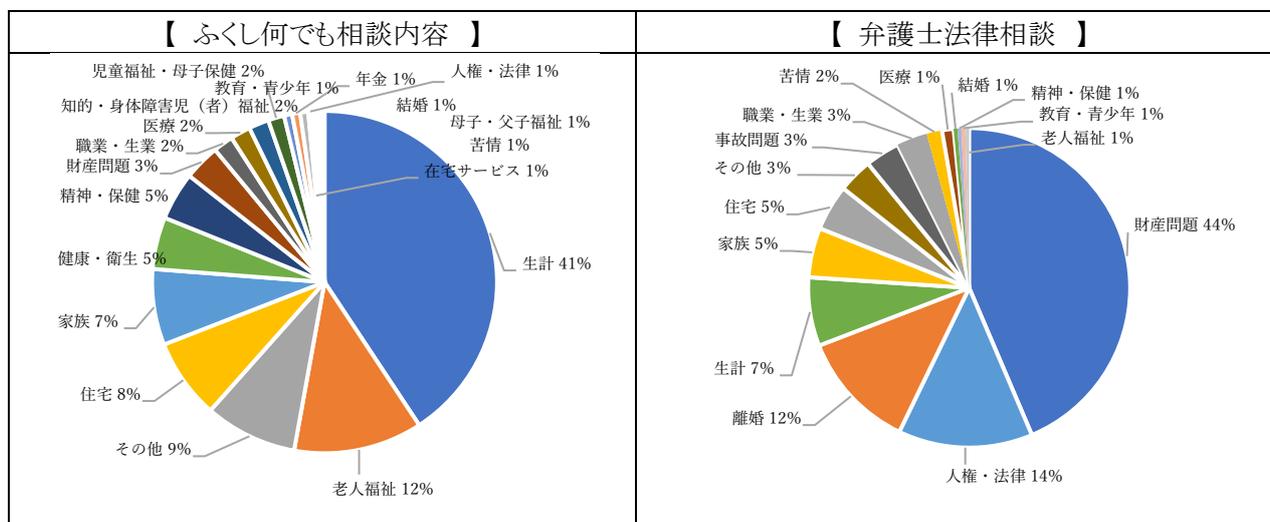
地域住民の悩みを一緒に考え、よりよい解決策をさがし、問題解決を図るため、弁護士による相談(無料法律相談)や悩みごとの相談窓口「あなたのふだんのくらしアシストセンター(総合相談窓口)」を総合福祉センター内に設けている。

地域住民の身近な地域で相談事業を実施するため、4地区のコミュニティセンターにおいて、弁護士による相談事業を実施した。コロナ禍以降の生活の不安定さや物価高騰等の影響により、生活に不安を感じている方等からの相談が増加傾向にある。

1 相談内容・状況等

令和6年度実績

| 相談内容 | 相談日 | 相談件数 (開催回数) |
|--------------------|--|----------------------|
| ふくし何でも相談 | 月曜日から金曜日 9:00～17:00 | 268名 360件 |
| 弁護士による電話法律相談 | 毎月第2木曜日 10:00～12:00 | 30件(12回) |
| 弁護士による心配ごと相談 | 毎月第2・第3火曜日 10:00～12:00 毎月第1・第4火曜日 10:00～15:00 | 207件(69回) |
| コミュニティセンターでの無料法律相談 | (時間はいずれも 18:00～20:00) 北コミュニティセンター 8月16日(金) 東コミュニティセンター 9月20日(金) 南コミュニティセンター 11月15日(金) 中央コミュニティセンター 12月20日(金) | 3件 4件 2件 3件 |



◇相談件数の多い順◇

【ふくし何でも相談】

- ① 生計 108件(41%)
- ② 老人福祉 32件(12%)
- ③ その他 23件(9%)
- ④ 住宅 20件(8%)
- ⑤ 家族 19件(7%)

【弁護士法律相談】

- ① 財産問題 113件(44%)
- ② 人権・法律 35件(14%)
- ③ 離婚 31件(12%)
- ④ 生計 18件(7%)
- ⑤ 家族 13件(5%)

2 相談員懇談会の開催

相談事業における近年の傾向や要望を基に、市民が活用しやすい相談事業のあり方を協議し、改善点(開催回数・開催内容)の確認と相談事例の情報交換を行った。

| 期 日 | 参 加 者 |
|-----------|--------------|
| 令和7年2月21日 | 弁護士6名 相談関係職員 |

3 地域のニーズに応えるための協議・確認事項

他機関における各種相談との差別化を図り、法律相談以前の身の上相談を含む幅広い相談に対応している。広報についても担当弁護士と連携を図りながら積極的に取り組み、地域の方に広く利用していただけるよう環境づくりに努めている。

4 相談ニーズに応えるためのセミナーの開催

ふくし何でも相談、弁護士相談において相談が多い、財産問題、人権・法律問題、老人福祉に関する相談ニーズの充足を図ることを目的に令和6年度は以下のセミナーを開催した。

1. 相続セミナー(令和6年11月24日 開催) 参加者12名
2. 終活セミナー(令和7年1月18日 開催) 参加者20名
3. 成年後見セミナー(令和7年2月10日 開催) 参加者26名

27. 生活福祉資金貸付事業(県社協受託事業)

生活福祉資金
貸付事業

令和6年度実績

相談件数が増加する中で、申込とならない(貸付の対象とならない)相談も増加しつつある。その背景としては、相談者の抱える問題が複雑化しており、償還の目途が立てられないことや、そもそも貸付制度の趣旨になじまないケースなどが挙げられる。正しい制度の理解とともに、貸付以外の支援として、他機関・他制度との連携が求められるケースは増加している

◇生活福祉資金相談・貸付状況

(※相談件数は初回相談時を標記 ※決定件数は令和5年度申込分を含む)

| 種別 / 内容 | | 相談件数 | 申込件数 | 決定件数 | 貸付額 |
|------------|------------------|------|------|------|------------|
| 総合支援資金 | 生活支援費 | 5 | 0 | 0 | 0円 |
| | 住宅入居費 | 3 | 0 | 0 | 0円 |
| | 一時生活再建費 | 6 | 0 | 0 | 0円 |
| 教育支援資金 | 就学支度費 | 110 | 18 | 18 | 5,463,000円 |
| | 教育支援費 | 105 | 12 | 12 | 2,259,000円 |
| 福祉資金 | 生業 | 3 | 0 | 0 | 0円 |
| | 技能修得 | 2 | 0 | 0 | 0円 |
| | 葬祭 | 3 | 0 | 0 | 0円 |
| | 転宅 | 9 | 0 | 0 | 0円 |
| | 福祉用具購入 | 0 | 0 | 0 | 0円 |
| | 障がい者自動車購入 | 2 | 0 | 0 | 0円 |
| | 住宅改修 | 3 | 0 | 0 | 0円 |
| | 療養・介護 | 1 | 0 | 0 | 0円 |
| | 災害援護・国年・エアコン・必需品 | 10 | 1 | 1 | 117,000円 |
| | 緊急小口資金 | 127 | 24 | 23 | 948,000円 |
| 不動産担保型生活資金 | | 8 | 0 | 0 | 0円 |
| その他 | | 368 | 0 | 0 | 0円 |
| 合計 | | 765 | 55 | 54 | 8,787,000円 |

◇臨時特例つなぎ資金相談・貸付状況

| 種別 / 内容 | 相談件数 | 申込件数 | 決定件数 | 貸付額 |
|-----------|------|------|------|-----|
| 臨時特例つなぎ資金 | 0 | 0 | 0 | 0円 |
| 合計 | 0 | 0 | 0 | 0円 |

28. 特例貸付相談支援事業(県社協受託事業)

令和5年1月より特例貸付の償還が開始され2年が経過し、特例小口については償還期限を迎える中で、償還猶予、償還免除に関する相談は依然として継続の状況にある。

各世帯ごとの生活状況も異なる中で、各種制度、サービスや償還猶予並びに償還免除の手続きへと繋げられるよう相談支援を行っている。

令和6年度も弁護士による法律相談を月に1度、金曜日夜間もしくは土曜日の午前に開催。法的課題の解決に向けての相談の機会を設けている。

令和6年度実績 (開催回数 12回 相談件数 36件)

| 相談内容 | 相談日時 | 相談件数 |
|----------|---------------------------|------|
| 個別無料法律相談 | 令和6年4月19日(金) 18:00~20:00 | 4件 |
| | 令和6年5月17日(金) 18:00~20:00 | 1件 |
| | 令和6年6月8日(土) 10:00~12:00 | 2件 |
| | 令和6年6月21日(金) 18:00~20:00 | 3件 |
| | 令和6年7月19日(金) 18:00~20:00 | 4件 |
| | 令和6年9月14日(土) 10:00~12:00 | 3件 |
| | 令和6年10月18日(金) 18:00~20:00 | 3件 |
| | 令和6年12月14日(土) 10:00~12:00 | 3件 |
| | 令和7年1月24日(金) 18:00~20:00 | 3件 |
| | 令和7年2月14日(金) 18:00~20:00 | 4件 |
| | 令和7年3月8日(土) 10:00~12:00 | 4件 |
| | 令和7年3月14日(金) 18:00~20:00 | 2件 |

29. 日常生活自立支援事業

日常生活自立
支援事業

社会福祉法に基づき、認知症の方、知的障がい者、精神障がい者の方で判断能力が不十分なため日常生活が困難な方に対して、自立した地域生活を送れるよう、社協に生活支援員を配置し、福祉サービスの利用や日常的金銭管理、書類等(預貯金通帳)の預かり等のサポートを行っている。

日常生活自立支援事業は、市民参加が難しい権利擁護事業において、唯一市民参加が可能な事業として位置づけし、地域福祉関係者に生活支援員を担っていただき、令和6年度は1名の生活支援員を増員した。

しかしながら、利用相談に関しては増加傾向にあり、それに比例し利用者数も増加してきていることから今後も生活支援員養成研修会を継続的に開催し、広報啓発とともに市民生活支援員の養成、増員を行っていく。

令和6年度実績

◇新規相談件数 :22名 (男性7名 女性15名)

類型内訳:認知症 16名 精神 2名 知的 4名

◇利用者数 :22名 (男性 12名 女性 10名)

類型内訳:認知症 17名 知的2名 精神3名

◇専門員 1名

◇生活支援員 援助活動実績表 生活支援員 15名(内、担当社協職員 4名)

| | 件数 | 回数 | 終了 | 開始 |
|-----|-----|-----|----|----|
| 4月 | 30 | 56 | 0 | 1 |
| 5月 | 30 | 60 | 0 | 0 |
| 6月 | 30 | 47 | 2 | 2 |
| 7月 | 27 | 59 | 4 | 1 |
| 8月 | 27 | 56 | 1 | 1 |
| 9月 | 26 | 46 | 1 | 0 |
| 10月 | 26 | 63 | 0 | 0 |
| 11月 | 27 | 52 | 1 | 2 |
| 12月 | 27 | 53 | 2 | 2 |
| 1月 | 24 | 49 | 4 | 1 |
| 2月 | 23 | 48 | 1 | 0 |
| 3月 | 22 | 44 | 1 | 0 |
| 合計 | 319 | 633 | 17 | 10 |

◇生活支援員会議

| 開催日 | 内 容 |
|----------|---|
| 5月15日(水) | <ul style="list-style-type: none"> 日常生活自立支援事業の現状と利用者状況について 支援時の確認(注意事項・記録の方法)について |

30. 法人後見事業

令和6年度実績

1 成年後見運営委員会の開催

第1回成年後見運営委員会

期 日 : 令和6年9月27日(金)
場 所 : 大野城市総合福祉センター2階多目的室
運営委員 : 弁護士(1)、司法書士(1)、社会福祉士(2)、行政関係者(1)、計5名
内 容 : 受任中ケースの定期報告(3件)

第2回成年後見運営委員会

期 日 : 令和7年3月19日(水)
場 所 : 大野城市総合福祉センター2階多目的室
運営委員 : 弁護士(1)、社会福祉士(2) 計3名
内 容 : 受任中ケースの定期報告(3件)

2 成年後見制度利用促進基本計画策定及び中核機関協議会の取組状況について

中核機関である大野城市すこやか長寿課、福祉サービス課と定期的に、申し立てケースの情報共有し、成年後見制度の広報・啓発活動と相談対応・利用支援等の取組を進めている。

31. ライフレスキュー事業

法人運営費

社会福祉法人の公益事業として県下で進められている生活困窮者等に対する相談・支援事業である「ふくおかライフレスキュー事業：主管福岡県社会福祉協議会等」に参加し、権利擁護事業の拡充を図る。この事業に参画する市内の社会福祉法人及び市の関係部署とも連携を図りながら、緊急を要する人への食材支援、ライフラインの復旧などの経済的援助（現物給付）を行い、個別支援を強化する。

令和6年度実績

ふくおかライフレスキュー事業による相談対応はなかった。しかしながら、生活困窮に関する相談は増加傾向にあり、生活困窮者支援として食糧支援を40件行った。

生活困窮に関する相談の中で居住に関する相談、問い合わせがあり、ライフレスキュー事業に加入している社会福祉法人に情報共有を行い、関係者に相談先に関する情報提供を行った。

食料支援

| | 相談者数 | 支援回数 |
|-----|------|------|
| 4月 | 5 | 5 |
| 5月 | 6 | 6 |
| 6月 | 5 | 5 |
| 7月 | 8 | 11 |
| 8月 | 3 | 3 |
| 9月 | 7 | 10 |
| 10月 | 3 | 4 |
| 11月 | 4 | 4 |
| 12月 | 1 | 1 |
| 1月 | 4 | 4 |
| 2月 | 5 | 5 |
| 3月 | 5 | 6 |
| 合計 | 56 | 64 |

32. 死後事務事業

死後事務事業では、亡くなった後の手続きを行っている。

生前の権利擁護としては、日常生活自立支援事業や成年後見制度といった分野において権利擁護が行われるが、亡くなられた後の権利擁護、また亡くなった時の心配、不安を軽減させるための事業として、死後事務事業を行なう。

令和6年度実績

令和4年度より事業開始。契約者はなし。

事業利用には至らなかったものの、相談支援の一環として、死後事務に係る本人の意思決定支援を1件行った。

<居宅介護サービス課>

33. 介護サービス事業

介護サービス事業については、地域福祉活動の視点をもって社協らしい介護サービス事業を展開すべく職員の資質向上に努めた。

市受託事業
居宅介護等支援事業
指定訪問介護事業
訪問型サービス
指定訪問入浴
障がい福祉サービス事業
地域生活支援事業

| 区分 | 施策 | 活動内容 |
|-----------|---------------------------|---|
| 介護保険事業 | 指定居宅介護支援事業 | 介護支援専門員によるケアプランの作成(要介護及び総合事業) |
| | 指定訪問介護事業 | 訪問介護員が居宅に伺い、身体介護・生活援助のホームヘルプサービスの提供 (実施)月～日曜日 7:00～24:00 |
| | 指定訪問入浴介護事業 | 看護職員等が居宅に移動入浴車で伺い、浴槽を搬入し入浴介護サービスの提供 (実施)月～日曜日 8:30～21:00 |
| 総合事業 | 訪問型サービス国基準 | 訪問介護員が居宅に伺い、主に身体介護のホームヘルプサービスの提供 (実施)月～日曜日 8:30～17:00 |
| 地域生活支援事業 | 移動支援 | 平成18年10月より新設された障がい福祉サービスの一部 ・移動支援 移動に支援を必要とする方を対象とした移動支援サービス。屋外での移動が困難な障がい児(者)に対して、余暇活動や社会生活上必要な外出時の支援及び学校等への送迎を行う |
| | 訪問入浴サービス事業 | 身体障がい者の方(65歳未満)・介護保険外の高齢者の方への移動入浴車による入浴介護サービスの提供 |
| 受託事業 | 乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん訪問事業) | 生後4か月未満の乳児のいる家庭に訪問し、育児に関する不安や悩みの聴取・相談、親子の心身の状況や養育環境の把握、子育て支援に関する情報提供を行う |
| 障がい福祉サービス | 居宅介護 | ホームヘルプサービスと呼ばれているサービスで、自宅で入浴・排泄・食事などの介護を行う |
| | 重度訪問介護 | 重度の肢体不自由者で、常に介護が必要な障がい者に、自宅で入浴・排泄・食事の介助を行う。外出時の移動を助け、移動中の介護も行う |
| | 行動援護 | 知的障がいや精神障がいにより行動が困難で常に介護が必要な障がい者に、行動するときの危険を回避する援助や外出時の移動の補助を行う |
| | 同行援護 | 視覚障がいにより、移動に著しい困難を有する者に、外出時において同行し、移動に必要な情報を提供するとともに、移動の援護、排泄・食事等の介護等を行う |
| 制度外 | ほっとサポート | ①制度上(障害者総合支援法、介護保険等)のホームヘルパー派遣において制限をうける人 ②ホームヘルパーの派遣をうけないと日常生活に支障をきたす人を対象とするサービス。地域の中で安心して暮らせるように、日常生活に必要な介護等の支援を行うことを目的とした大野城市社会福祉協議会独自の事業 |

1 介護サービス研修会

令和6年度大野城市社会福祉協議会介護サービス研修計画

| | 訪問介護 | 訪問入浴 | 居宅 | 合同 |
|--|------|------|----|----|
| 4月13日(土) 9:00~11:00 社協3F大会議室 ○2024年度の事業方針について(担当 幸) | ○ | ○ | | |
| 5月11日(土) 9:00~11:00 社協2F多目的室 ○障害理解について(担当 松田・福島) | ○ | ○ | | |
| 6月8日(土) 9:00~11:00 社協3F大会議室 ○感染症及び食中毒の予防及びまん延防止について(訓練)(担当 岩永・貝原) | ○ | ○ | | |
| 7月13日(土)9:00~11:00 社協3F大会議室 ○福祉に携わる人のための接遇マナー研修(担当総務・居宅) 講師:アイヴィーケアプロジェクト ivy care project 高橋 代表 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 8月10日(土) 9:00~11:00 社協3F大会議室 ○虐待防止及び身体拘束、ハラスメントについて(担当 岩永・幸) | ○ | ○ | | |
| 9月14日(土) 9:00~11:00 社協3F大会議室 ○身体介護技術(担当 貝原・松田) 講師:株式会社 神崎工務店 所長 吉村 純一氏 株式会社 モリトー営業部部长 福岡営業所 所長 武田 淳哲氏 | ○ | ○ | | |
| 10月12日(土)9:00~11:00 社協3F大会議室 ○緊急時の対応について(担当 幸・松田) ～パッキング～ | ○ | ○ | | |
| 11月2日(土) ホームワーク(悪天候のため) ○口腔ケアについて(担当 貝原・松田) | ○ | ○ | | |
| 12月14日(土) 9:00~11:00 社協3F大会議室 ○人権研修～成年後見人としての権利擁護(担当総務・居宅 中山) 講師:うめづ事務所 梅津 生子先生 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 1月11日(土) 9:00~11:00 社協3F大会議室 ○認知症対応について ○看取りについて (担当 幸・岩永) | ○ | ○ | | |
| 2月8日(土) 9:00~11:00 社協3F大会議室 ○虐待防止及び身体拘束について(2)(担当 貝原・幸) ○ハラスメントについて | ○ | ○ | | |
| 3月8日(土) 9:00~11:00 社協3F大会議室 ○BCP(業務継続計画)感染症・自然災害について(模擬訓練)(担当 岩永・幸) | ○ | ○ | | |

7月13日(土)11:00~12:00(身体拘束適正化・高齢、障害者虐待防止検討委員会)
12月14日(土)11:00~12:00(身体拘束適正化・高齢、障害者虐待防止検討委員会)
講師都合により順番が変動する可能性があります。

2 介護サービス状況（介護保険・障害福祉サービス・受託事業・制度外支援）

令和6年度実績

別表3 令和6年度 介護サービス状況

| | | 合計 (上半期) | 前年比 | |
|------------|------------------|-------------|--------|------|
| 介護保険適用 | 居宅サービスケアプラン作成(人) | 294 | 103% | |
| | 介護予防ケアプラン作成(人) | 7 | 47% | |
| | 指定訪問介護(人) | 119 | 127% | |
| | 指定介護予防訪問介護(人) | - | - | |
| | 指定訪問入浴(人) | 46 | 128% | |
| | 指定介護予防訪問入浴(人) | - | - | |
| | 件数合計 | 466 | 108% | |
| | ヘルパ-実働(時間) | 身体介護 | 376.50 | 92% |
| | | 生活援助 | 401.56 | 124% |
| | | 予防訪問介護 | - | - |
| 計 | 778.06 | 106% | | |
| 入浴スタッフ稼働回数 | 実施 | 260 | 148% | |
| | キャンセル | 9 | 41% | |
| 総合事業 | 総合事業ケアプラン作成(人) | 12 | 200% | |
| | 訪問型サービス国基準(人) | 39 | 130% | |
| | 訪問型サービスA(人) | - | - | |
| | 件数合計 | 51 | 142% | |
| | ヘルパ-実働(時間) | 訪問型(国) | 184.75 | 111% |
| 訪問型(A) | | - | - | |
| 計 | 184.75 | 111% | | |

| | | 合計 | 前年比 |
|------|-----------|------|---------|
| 受託事業 | こんにはち赤ちゃん | 対象者数 | 20 105% |
| | 訪問修了者 | 20 | 105% |

| | | 合計 | 前年比 |
|--------------------------|---------|------|-----------|
| 制度外事業 | ほっとサポート | 対象者数 | 25 100% |
| | | 延べ人数 | 23.5 124% |
| ※ 制度対象外支援 | | | |
| ※ 1時間3,500円(生保世帯は1,700円) | | | |

令和7年1月から新規事業

| | | 合計 | 前年比 |
|------|------------|------|------|
| 総合事業 | 訪問型サービスD事業 | 対象者数 | 9 - |
| | | 延べ人数 | 48 - |
| | 回数 | 48 | - |

| | | 合計 (6年度) | 前年度比 | |
|------------|------------|-------------|--------------|-------------|
| 居宅介護 | 対象者(人) | 障害者 | 193 101% | |
| | | 知的障害者 | 55 98% | |
| | | 障害児 | 20 100% | |
| | | 計 | 268 100% | |
| | 身体介護(時間) | 障害者 | 1,736.25 88% | |
| | | 知的障害者 | 419.00 89% | |
| | | 障害児 | 359.00 102% | |
| | | 計 | 2,514.25 90% | |
| | 家事援助(時間) | 障害者 | 125.00 138% | |
| | | 知的障害者 | 28.00 34% | |
| | | 障害児 | - | |
| | | 計 | 153.00 89% | |
| | 合計 | | 2,667.25 90% | |
| | 重度訪問介護 | 対象者(人) | 身体障害者 | 12 300% |
| | | 時間 | 身体障害者 | 186.00 315% |
| 行動支援 | 対象者(人) | 障害者 | - | |
| | | 知的障害者 | 11 100% | |
| | | 障害児 | - | |
| | 計 | 11 100% | | |
| | 時間 | 障害者 | - | |
| | | 知的障害者 | 102.00 93% | |
| 障害児 | | - | | |
| 計 | 102.00 93% | | | |
| 同行支援 | 対象者(人) | 視覚障害者 | 20 91% | |
| | 時間 | 視覚障害者 | 193.50 93% | |
| 地域生活支援事業 | 対象者(人) | 障害者 | 17 142% | |
| | | 知的障害者 | 46 177% | |
| | | 障害児 | 8 32% | |
| | | 計 | 71 113% | |
| | 移動身体あり(時間) | 障害者 | 157.00 105% | |
| | | 知的障害者 | 171.50 227% | |
| | | 障害児 | 21.00 51% | |
| | | 計 | 349.50 131% | |
| | 移動身体なし(時間) | 障害者 | - | |
| | | 知的障害者 | 49 285% | |
| 障害児 | | - | | |
| 計 | 48.50 285% | | | |
| 合計 | | 398.00 140% | | |
| 入浴事業対象者(人) | | 12 | 92% | |
| 障害者(回) | | 78 | 99% | |
| 計 | | 83 | 109% | |
| 障害福祉対象者計 | | 393 | 103% | |
| サービス利用者計 | | 1,479 | 109% | |
| ヘルパ-総稼働時間数 | | 5534.06 | 101% | |
| 入浴事業稼働回数 | | 590 | 121% | |

3 実習生受け入れ状況（介護職員初任者研修、介護福祉士、介護支援専門員）

◇令和5年度 訪問介護実習生受け入れ状況

| 団体名 | 期間 | 人数 |
|-----|----|----|
| なし | なし | 0 |

◇令和5年度 福岡県介護支援専門員実務者研修

| 団体名 | 期間 | 人数 |
|-----|----|----|
| なし | なし | 0 |

34. 社会福祉援助技術現場実習受け入れ

法人運営費

将来の福祉従事者を育成する一環として、各学校からの実習生の受け入れを行なっている。実習内容は、社会福祉協議会の事業全般にはじまり、介護サービス、コミュニティワーカーの地域福祉活動の現場実習等、様々なカリキュラムを組んでいる。

令和6年度実績

◇実習生受け入れ状況

| 実習期間 | 大学名 | 人数 |
|-------------|------------------|----|
| 6月24日～7月29日 | F・C フチガミ医療福祉専門学校 | 1 |
| 8月13日～9月18日 | 久留米大学 | 1 |
| 8月13日～9月18日 | 西南学院大学 | 2 |
| 8月13日～9月25日 | 久留米大学 | 1 |
| 2月12日～2月21日 | 筑紫女学園大学 | 2 |

35. 職員の資格（取得）状況

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------------|---------|------------|------------|------------|------------------|------------------|---------------|----------|---------|-----------|-----|-------|------------|-----------|---------|---------|--------|----------|----------|----------------|-------------|---------------|------------|---------|
| 資格等名 | 社会福祉士 | 精神保健福祉士 | 公認心理師 | 社会福祉主事 | 社会保険労務士 | ボランティアコーディネーション力 | ボランティアコーディネーション力 | 社協会計実務通信講座 | 簿記3級以上 | 介護支援専門員 | 主任介護支援専門員 | 看護師 | 介護福祉士 | 介護福祉士実務者研修 | 介護職員初任者研修 | ガイドヘルパー | 行動援護 | 強度行動援護 | 同行援護 | 障がい者ヘルパー | 精神障がい者ヘルパー | 難病ヘルパー | 喀痰吸引（第3号） | 訪問型生活支援担い手 | |
| | 11 | 2 | 1 | 6 | 1 | 3 | 8 | 1 | 1 | 0 | 12 | 8 | 2 | 3 | 18 | 7 | 9 | 7 | 3 | 5 | 5 | 7 | 6 | 2 | 1 |
| | | | | | | 2級 | 3級 | 上級 | 中級 | 入門 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 資格等名 | 認知症キャラバンメイト | パリテーション | 障害者相談支援従事者 | 社会福祉士実習指導者 | 介護福祉士実習指導者 | 社会福祉士会 成年後見人養成研修 | 市民後見人養成研修 | 福祉住環境コーディネーター | 介護クラーク事務 | 医療事務 | 応急手当普及員 | 防災士 | 防火管理者 | 保育士 | 幼稚園教諭 | 調理師 | 食品衛生責任者 | 図書館司書 | 第二種衛生管理者 | 大型一種運転免許 | 医療的ケア児コーディネーター | 一般旅行業務取扱主任者 | 職業訓練指導員（自動車科） | 二級自動車整備士 | 自動車県検査員 |
| | 3 | 2 | 1 | 6 | 1 | 1 | 5 | 5 | 2 | 3 | 6 | 6 | 4 | 3 | | 4 | 2 | 4 | 2 | 2 | 1 | 1 | | 1 | 1 |

延べ総数

195

36. 職員内部研修

法人運営費

◇令和6年度職員内部研修

① 接遇研修

| | |
|------|---|
| 開催日 | 令和6年7月13日(土)9:00～11:00 |
| 開催場所 | 大野城市総合福祉センター |
| 参加者 | 職員 41名 |
| 研修内容 | 「福祉に携わる人のための接遇マナー研修」 アイヴィー ケア プロジェクト ivy care project 高橋 高橋 いくこ 先生 |

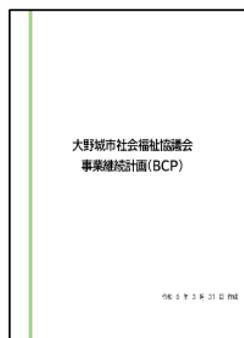
② 人権研修

| | |
|------|---|
| 開催日 | 令和6年12月14日(土)9:00～11:00 |
| 開催場所 | 大野城市総合福祉センター |
| 参加者 | 職員 33名 |
| 研修内容 | 『 成年後見人としての権利擁護 』 講師 うめづ事務所 梅津 生子先生(社会福祉士) |

37. 事業継続計画の作成

◇事業継続計画の作成

近年頻発しておこっている自然災害や感染症蔓延の状況においても、重要な業務が継続出来るように方策などを計画した事業継続計画 (BCP) について、介護事業とあわせ法人としての事業継続計画 (BCP) を作成している。必要に応じ、見直していく。



赤い羽根共同募金運動



社会福祉法人福岡県共同募金会
大野城市支会

令和6年度実績

多くの方々にご協力頂いた共同募金運動は、地域の福祉活動費や福祉団体への助成、社会福祉協議会が行なう様々な福祉事業に活かされている。

1 赤い羽根共同募金フォトコンテスト Vol.3

テーマ：「わたしの推し～しあわせのおすそわけ」

内 容： みんなのあたたかな“たすけあいの心”を広げ、福祉への関心と理解を深めることを目的にフォトコンテストを実施した。厳正な審査の結果、最優秀賞1作品、優秀賞2作品、佳作6作品が入選となった。最優秀賞の作品はリーフレットの表紙にするなど、共同募金の啓発をする際作品を活用した。



【最優秀賞】

佐野 美耶さん

★作品タイトル 「推し×推しは幸です。」

★作品へのコメント

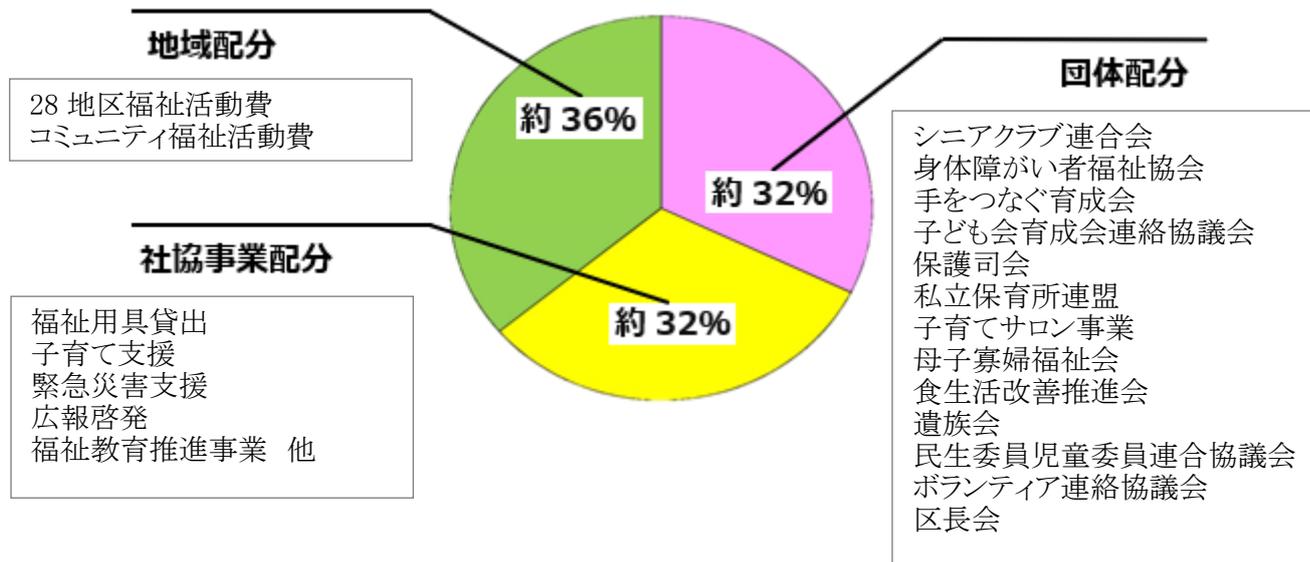
発達障害でコミュニケーションが苦手な息子と、野良猫出身で沢山の困難を乗り越えた小麦。猫さんの扱いがまだ雑な息子ですが、小麦は根気強く相手をしてくれます。私の推しである息子と、息子の推しである小麦。2人が一緒にいる空間は「幸」でしかありません。

2 目安額・実績額

(単位：円)

| | 令和6年度 | | 令和5年度 | |
|-------------|------------|------------|------------|------------|
| | 目安額 | 実績額 | 目安額 | 実績額 |
| 戸別募金 | 13,839,000 | 13,700,522 | 13,851,000 | 13,702,013 |
| 企業募金 | 2,280,000 | 2,190,784 | 2,306,000 | 2,257,709 |
| 街頭募金 | 308,000 | 270,617 | 273,000 | 305,610 |
| 職域団体募金 | 696,000 | 577,105 | 613,000 | 689,640 |
| バッジ等募金 | 516,000 | 476,968 | 578,000 | 511,725 |
| 個人募金 | 281,000 | 293,806 | 431,000 | 279,009 |
| イベント募金 | 95,000 | 108,802 | 23,000 | 94,247 |
| 自販機売上募金 | 970,000 | 894,216 | 709,000 | 961,142 |
| 募金箱設置協力 | 270,000 | 355,964 | 279,000 | 267,426 |
| 寄付つき商品による募金 | 63,000 | 41,078 | 60,000 | 62,699 |
| 合 計 | 19,318,000 | 18,909,862 | 19,123,000 | 19,131,220 |

配分実績



3 寄付つき商品

大野城市内の事業所にご協力いただき、共同募金（寄付）商品の開発を行い推進している。

商 品 : かりんとう
協力企業 : 有限会社天龍堂製菓(大野城市仲畑)
募 金 額 : 25,650 円 (1,350 個)

商 品 : クッキー
協力企業 : ファン工房 ほゑみ(大野城市若草)
募 金 額 : 7,210 円 (7,210 個)

商 品 : ラスク
協力企業 : まどかゆいばる(大野城市上大利)
募 金 額 : 8,218 円

4 支会運営委員会開催状況 (運営委員総数 10名)

| 開催年月日 | | | 議 題 | | 出席者 |
|----------|-------|-----|-----|--|-----|
| 令和 6年 | 9月11日 | 第1回 | 議事1 | 令和5年度福岡県共同募金会大野城市支会 事業報告について | 9名 |
| | | | 議事2 | 令和5年度福岡県共同募金会大野城市支会 資金収支決算報告および監査報告について | |
| 令和 7年 | 3月6日 | 第2回 | 議事1 | 令和7年度福岡県共同募金会大野城市支会 事業計画書(案)について | 9名 |
| | | | 議事2 | 令和7年度福岡県共同募金会大野城市支会 資金収支予算書(案)について | |

福岡県共同募金会大野城市支会運営委員会

任期 自 令和4年8月 1日
至 令和8年7月31日

1. 運営委員

| No | 氏 名 | 推薦母体 |
|----|-------------|-------------------|
| 1 | 支会長 楠林 義治 | 大野城市社会福祉協議会 |
| 2 | 副支会長 藤井 春三郎 | 大野城市区長会 |
| 3 | 副支会長 吉田 洋 | 大野城市商工会 |
| 4 | 清水 雅之 | 筑紫農業協同組合 |
| 5 | 大丸 千恵子 | 大野城市食生活改善推進会 |
| 6 | 妹尾 洋子 | 大野城市民生委員児童委員連合協議会 |
| 7 | 添島 浩 | 市民公募 |
| 8 | 瀬戸 克也 | 募金協力企業 |
| 9 | 池邊 幸子 | 男女参画団体 |
| 10 | 井ノ上 裕治 | 大野城市 |

2. 監事

| | | |
|---|-------|----------|
| 1 | 清水 雅之 | 筑紫農業協同組合 |
|---|-------|----------|

⑥ 被災地支援義援金

市民の皆さまからお預かりした多額の義援金は、被災地に設置された義援金配分委員会を通じて被災者へ分配される予定である。

| | |
|--|-----------|
| 令和6年能登半島地震災害義援金 令和6年1月5日(金)から令和7年12月26日(金) | 178,823 円 |
| 令和6年7月山形県大雨災害義援金 令和6年8月1日(木)から令和6年12月27日(金) | 7,668 円 |
| 令和6年度秋田県大雨災害義援金 令和6年8月1日(木)から令和6年12月27日(金) | 3,463 円 |
| 令和6年能登豪雨災害義援金 令和6年9月26日(木)から令和7年3月31日(月) | 21,195 円 |
| 大船渡市赤崎町林野火災義援金 令和7年3月6日(木)から令和7年6月30日(月) | 233 円 |

★基本方針★

地域福祉の現場で活動している方々が日頃の活動をとおして感じていることや考えていることなど、地域のニーズや課題を可視化し、みんなで語り合う『ワールドカフェ方式』のワークショップを開催しました。その後、職員で構成した作業部会の中で幾度も協議を重ね、「大野城市地域福祉活動における市民活動推進計画」の進捗管理機関の大野城市やすらぎのまち市民協議会や、大野城市社会福祉協議会専門委員会の福祉事業委員会にも諮り、様々な意見をいただき、令和5年度に大野城市社会福祉協議会地域福祉活動計画を作成しました。

令和6年度より6ヶ年計画で、これからこの計画の7つの重点事業【①食の確保隊 ②ふだんのくらしアシストセンター（総合相談窓口） ③社会福祉法人と地域とのつながり ④地域福祉へのいざない事業 ⑤地域における外出手段を充実するための事業 ⑥大野城市ボランティア・市民活動フロント事業 ⑦権利擁護事業に関する取り組み強化と利用促進】を中心に、さらなる地域福祉の推進を図ってまいります。

また地域の支え合いを強化するため、「向こう三軒両隣」の輪を地域に広めながら、地域で見守りが必要な方をサポートしている福祉関係者と連携を図り、地域の中に「助け上手、助けられ上手」を増やし、生活に困っている人や地域の困りごとを他人事ではなく我が事として捉え、『支え手』『受け手』という関係を超えて地域住民が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながる「地域共生社会」を推進していきます。

これからも社会福祉協議会が地域福祉の推進における中核的な役割・機能を更に発揮できるよう、各地域でどのような変化が起きているのか、地域の「これまで」と「これから」について考え、社会福祉を取り巻く環境の動向と課題（情勢・政治動向等）を勘案しながら、職員一丸となって取り組んでいきます。

◆重点方針◆

大野城市地域福祉活動計画

令和6年度から始まる大野城市地域福祉活動計画に掲げた7つの重点事業の取り組みを、総務企画課、地域課、居宅介護サービス課が連携を図りながら進めていく。

① 食の確保隊

支援が届いていない生活困窮者の方へ、地域の有益と思われる情報を発信すると同時に訪問介護で培った専門的アプローチを活かし支援につなげていく。

《令和6年度実行計画》

SNSやチラシなどで情報発信すると同時に声掛けなど訪問開始。

② ふだんの暮らしのアシストセンター

利用しやすい相談窓口を目標として、子どもから高齢者にいたる全ての世代の困りごとに対応できるワンストップの相談窓口を目指し、まずは相談を受け止め、必要に応じ適切な関係機関へとつなぎ、地域住民の不安や悩み・困りごとの軽減を図っていく。

《令和6年度実行計画》

相談窓口の整備・常設（2名体制による平日・日中の常設相談）

③ 社会福祉法人と地域のつながり

社会福祉法人間の連携強化を図り、社会福祉法人と地域が協働して地域課題の解決を目指し、福祉のまちづくりに取り組むための環境を整備していく。

《令和6年度実行計画》

- 地域の課題を社会福祉法人連絡会が連携しておこなう「よりそい大野城」の相談窓口とも共有していく。
- 地域で福祉活動する住民の方とも共有し、課題解決に向けて一緒に考えていく。

④ 地域福祉へのいざない事業

『向こう三軒両隣～地域で互いに助け合う優しい楽しい地域社会づくり～』を目標に、住民が身近な地域活動に主体的に参加し、相互に交流しながら地域の福祉課題に目を向け話し合いや学び合う場づくりを強化する。

《令和6年度実行計画》

- ふーちゃんゼミナールの公開講座は動画撮影してホームページに載せ、広く市民に啓発をおこなう。
- 福岡県マンション管理士会と連携して、マンション居住者などを対象に講座を開き、講座参加者とつながりづくりを図っていく。

⑤ 地域における外出手段を充実させるための事業

地域における高齢者等の外出手段を確保し、住み慣れたまちで安心安全の豊かな生活につなげていく。

《令和6年度実行計画》

外出することが困難な高齢者等の実態調査をおこない、現状と課題を整理する。

⑥ 大野城市ボランティア・市民活動フロント事業

住民（企業）の“ボランティアをやってみたい・やりたい”思いを受け止め、活動情報の提供をおこなっていく。また、各関係機関との情報共有の場をつくっていく。

《令和6年度実行計画》

- ボランティアセンター内にフロントコーナーを設置
- フロント事業の周知広報
- フロント事業として住民（企業）の“やりたい”受付を開始
- 活動情報の洗い出し、収集、整理
- 地域、ボランティア団体、市民活動団体やNPO等の相談支援
- ボランティア登録システムの研究
- 地域、活動団体、NPO等関係機関との連絡調整

⑦ 権利擁護事業に関する取組強化と利用促進

行政と連携した権利擁護に関する制度や相談窓口の周知をおこない、行政との連携強化、

権利擁護における市民参加の拡充をおこなっていく。

《令和6年度実行計画》

市民後見人養成研修会や生活支援員養成研修会をおこない、生活支援員等の担い手を増やしていく。

◆重点事業◆

《健全な法人運営》

- ・収入と支出をあわせた財政の管理をおこなう。
- ・法令の学習と法令を遵守した法人運営をおこなう。

《業務の効率化》

- ・システムの効率的な利用の推進及び勤怠管理システム導入に向けた調査研究をおこなう。

《総合福祉センターの利活用》

- ・総合福祉センターの修繕をおこないながら、市民が安心して使用できる施設を目指し、適切な管理と運営を実施する。

《法人後見事業》

- ・個人の尊厳を第一に考え、適切な財産管理、身上監護等をおこない、被後見人等の権利を擁護していく。

《制度改正への対応》

- ・BCP（業務継続計画）、虐待防止、ハラスメント対応など令和6年度より義務化となる項目を確実に対応する。
- ・変わりゆく制度に対し、安定した事業継続が行えるように事業所としてできる限りの努力をおこなっていく。

《多職種との連携で強化した支援体制作りを考える》

- ・介護保険法、障害者総合支援法など制度の知識を最大限に活かし、制度外になるであろう困り事は多職種連携強化をおこない、地域共生社会を目指す上での課題としてできる限りの支援をおこなう。

